

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の
卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

平成30年9月

一般財団法人 日本開発構想研究所

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学
短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

2020年4月に予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の開設に向けて、卒業生の就職が見込まれる、**1都1道2府40**県（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、東京都、神奈川県、山梨県、北海道、青森県、岩手県、宮城県、山形県、福島県、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、新潟県、石川県、福井県、富山県、長野県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県、福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県、鹿児島県）に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施し、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

卒業生の就職が見込まれる農林業に関わる企業等を中心とした**1,890**社の採用担当者にアンケートへの協力を依頼し、**526**件の有効回答があった。

(3) 調査方法

卒業生の就職が見込まれる農林業に関わる企業等を中心とした**1,890**社の採用担当者にアンケート用紙及び静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答は一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送。

集計結果より、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成**30**年7月～平成**30**年8月

(5) 有効回収率等

配布数 : **1,890**社

有効回答数 : **526**件

有効回収率 : 約 **27.8%**

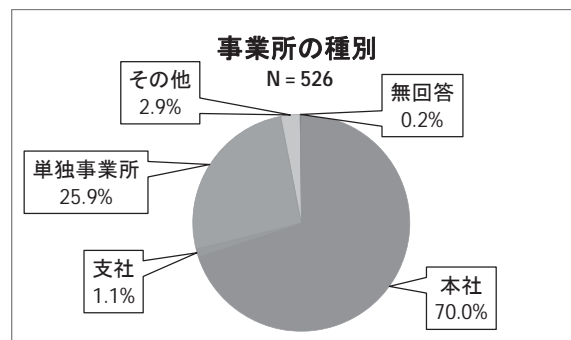
※設置を構想している静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

2. 調査結果

(1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 **526** 件のうち、「本社」が **368** 件 (**70.0%**) と最も多く、次いで「単独事業所」**136** 件 (**25.9%**)、「その他」**15** 件 (**2.9%**)、「支社」**6** 件 (**1.1%**) の順になっている。 ※「無回答」**1** 件 (**0.2%**)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 本社 | 368 | 70.0 |
| 2 | 支社 | 6 | 1.1 |
| 3 | 単独事業所 | 136 | 25.9 |
| 4 | その他 | 15 | 2.9 |
| | 無回答 | 1 | 0.2 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |

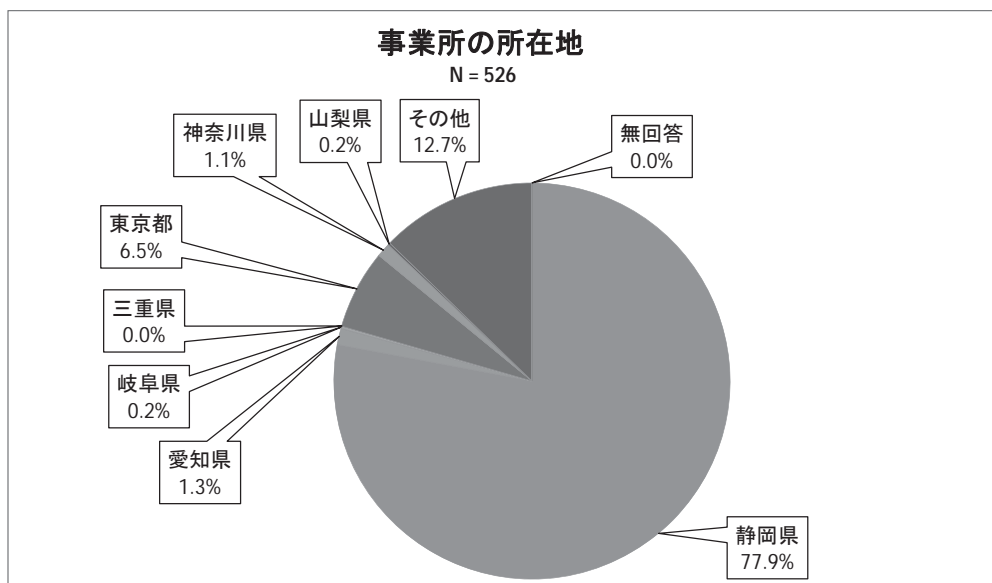


(2) 事業所の所在地について

事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「静岡県」が 410 件 (77.9%) と最も多く、次いで「その他」67 件 (12.7%)、「東京都」34 件 (6.5%)、「愛知県」7 件 (1.3%)、「神奈川県」6 件 (1.1%)、「岐阜県」1 件 (0.2%)、「山梨県」1 件 (0.2%) の順になっている。 ※「無回答」0 件 (0.0%)

事業所の所在地

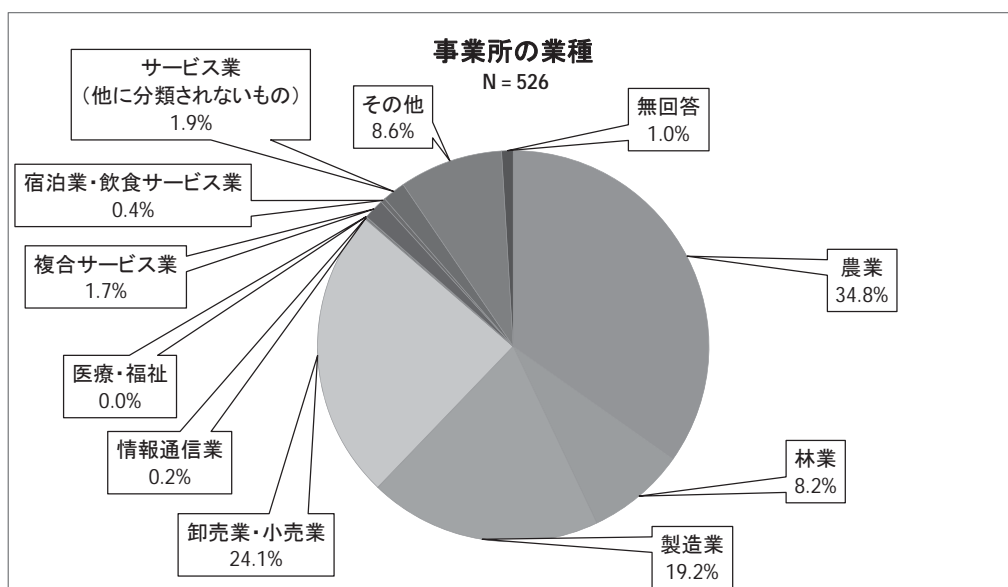
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 静岡県 | 410 | 77.9 |
| 2 | 愛知県 | 7 | 1.3 |
| 3 | 岐阜県 | 1 | 0.2 |
| 4 | 三重県 | 0 | 0.0 |
| 5 | 東京都 | 34 | 6.5 |
| 6 | 神奈川県 | 6 | 1.1 |
| 7 | 山梨県 | 1 | 0.2 |
| 8 | その他 | 67 | 12.7 |
| | 無回答 | 0 | 0.0 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「農業」が 183 件 (34.8%) と最も多く、次いで「卸売業・小売業」127 件 (24.1%)、「製造業」101 件 (19.2%)、「その他」45 件 (8.6%)、「林業」43 件 (8.2%)、「サービス業(他に分類されないもの)」10 件 (1.9%)、「複合サービス業」9 件 (1.7%)、「宿泊業・飲食サービス業」2 件 (0.4%)、「情報通信業」1 件 (0.2%) の順になっている。 ※「無回答」5 件 (1.0%)

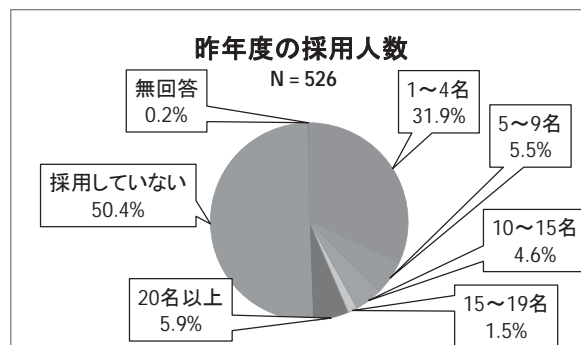
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|-----|-------|
| 1 | 農業 | 183 | 34.8 |
| 2 | 林業 | 43 | 8.2 |
| 3 | 製造業 | 101 | 19.2 |
| 4 | 卸売業・小売業 | 127 | 24.1 |
| 5 | 情報通信業 | 1 | 0.2 |
| 6 | 医療・福祉 | 0 | 0.0 |
| 7 | 複合サービス業 | 9 | 1.7 |
| 8 | 宿泊業・飲食サービス業 | 2 | 0.4 |
| 9 | サービス業(他に分類されないもの) | 10 | 1.9 |
| 10 | その他 | 45 | 8.6 |
| | 無回答 | 5 | 1.0 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



(4) 昨年度の採用人数について

昨年度の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等 **526** 件のうち、「採用していない」が**265**件 (**50.4%**) と最も多く、次いで「1~4名」が**168**件 (**31.9%**)、「20名以上」**31**件 (**5.9%**)、「5~9名」**29**件 (**5.5%**)、「10~15名」**24**件 (**4.6%**)、「15~19名」**8**件 (**1.5%**) の順になっている。 ※「無回答」**1**件 (**0.2%**)

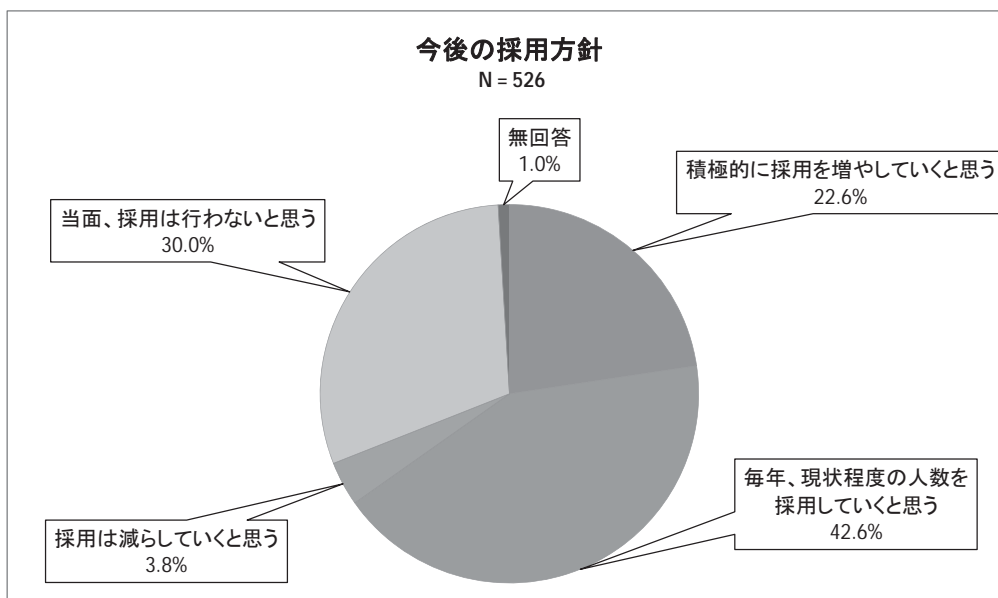
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 1~4名 | 168 | 31.9 |
| 2 | 5~9名 | 29 | 5.5 |
| 3 | 10~15名 | 24 | 4.6 |
| 4 | 15~19名 | 8 | 1.5 |
| 5 | 20名以上 | 31 | 5.9 |
| 6 | 採用していない | 265 | 50.4 |
| | 無回答 | 1 | 0.2 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



(5) 今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 **526** 件のうち、「毎年、現状程度の人数を採用していくと思う」が **224** 件 (**42.6%**) と最も多く、次いで「当面、採用は行わないと思う」**158** 件 (**30.0%**)、「積極的に採用を増やしていくと思う」**119** 件 (**22.6%**)、「採用は減らしていくと思う」**20** 件 (**3.8%**) の順になっている。 ※「無回答」**5** 件 (**1.0%**)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------------|-----|-------|
| 1 | 積極的に採用を増やしていくと思う | 119 | 22.6 |
| 2 | 毎年、現状程度の人数を採用していくと思う | 224 | 42.6 |
| 3 | 採用は減らしていくと思う | 20 | 3.8 |
| 4 | 当面、採用は行わないと思う | 158 | 30.0 |
| | 無回答 | 5 | 1.0 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



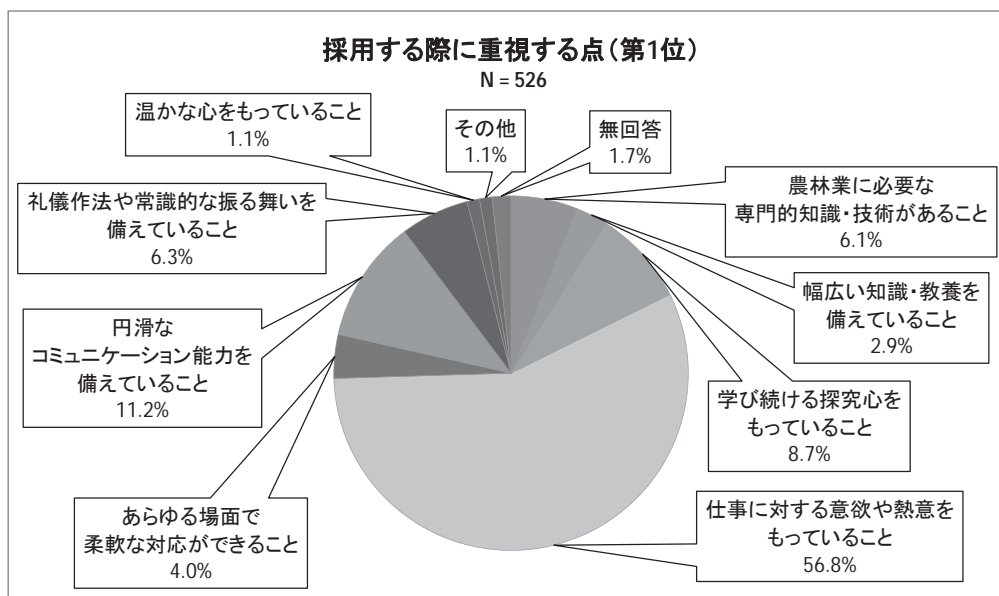
(6) 人材採用において重視する点について (複数回答)

6-1 人材採用において重視する点 (第1位) について

人材採用において重視する点 (第1位) について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「仕事に対する意欲や熱意をもっていること」が 299 件 (56.8%) と最も多く、次いで「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」59件 (11.2%)、「学び続ける探究心をもっていること」46 件 (8.7%)、「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」33 件 (6.3%)、「農林業に必要な専門的知識・技術があること」32 件 (6.1%)、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」21 件 (4.0%)、「幅広い知識・教養を備えていること」15 件 (2.9%)、「温かな心をもっていること」6 件 (1.1%)、「その他」6 件 (1.1%) の順になっている。 ※「無回答」9 件 (1.7%)

採用する際に重視する点(第1位)

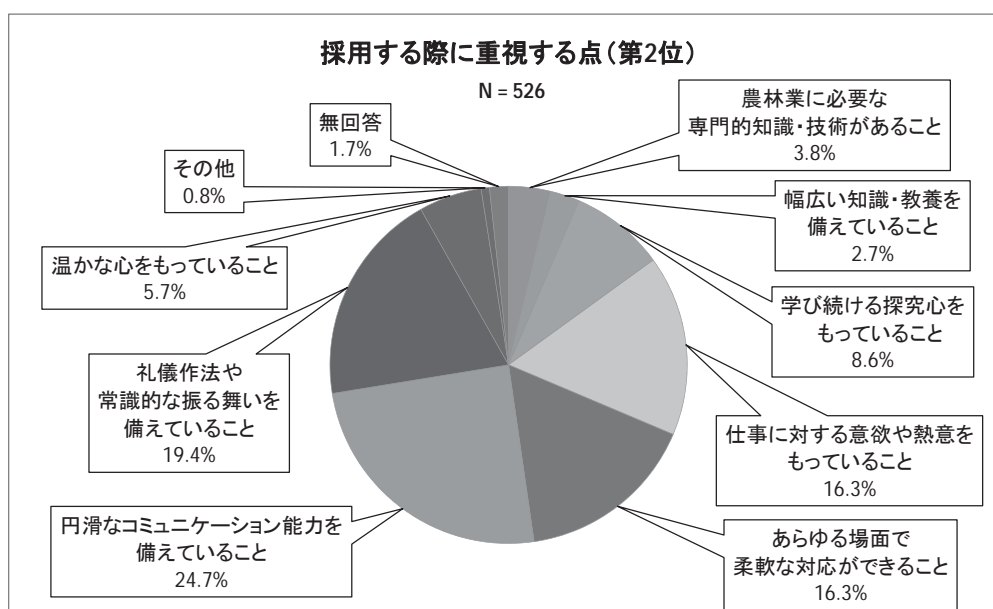
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|------------------------|-----|-------|
| 1 | 農林業に必要な専門的知識・技術があること | 32 | 6.1 |
| 2 | 幅広い知識・教養を備えていること | 15 | 2.9 |
| 3 | 学び続ける探究心をもっていること | 46 | 8.7 |
| 4 | 仕事に対する意欲や熱意をもっていること | 299 | 56.8 |
| 5 | あらゆる場面で柔軟な対応ができること | 21 | 4.0 |
| 6 | 円滑なコミュニケーション能力を備えていること | 59 | 11.2 |
| 7 | 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること | 33 | 6.3 |
| 8 | 温かな心をもっていること | 6 | 1.1 |
| 9 | その他 | 6 | 1.1 |
| | 無回答 | 9 | 1.7 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



6-2 人材採用において重視する点（第2位）について

人材採用において重視する点（第2位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 130 件（24.7%）と最も多く、次いで「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」102 件（19.4%）、「仕事に対する意欲や熱意をもっていること」86 件（16.3%）、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」86 件（16.3%）、「学び続ける探究心をもっていること」45 件（8.6%）、「温かな心をもっていること」30 件（5.7%）、「農林業に必要な専門的知識・技術があること」20 件（3.8%）、「幅広い知識・教養を備えていること」14 件（2.7%）、「その他」4 件（0.8%）の順になっている。 ※「無回答」9 件（1.7%）

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|------------------------|-----|-------|
| 1 | 農林業に必要な専門的知識・技術があること | 20 | 3.8 |
| 2 | 幅広い知識・教養を備えていること | 14 | 2.7 |
| 3 | 学び続ける探究心をもっていること | 45 | 8.6 |
| 4 | 仕事に対する意欲や熱意をもっていること | 86 | 16.3 |
| 5 | あらゆる場面で柔軟な対応ができること | 86 | 16.3 |
| 6 | 円滑なコミュニケーション能力を備えていること | 130 | 24.7 |
| 7 | 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること | 102 | 19.4 |
| 8 | 温かな心をもっていること | 30 | 5.7 |
| 9 | その他 | 4 | 0.8 |
| | 無回答 | 9 | 1.7 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



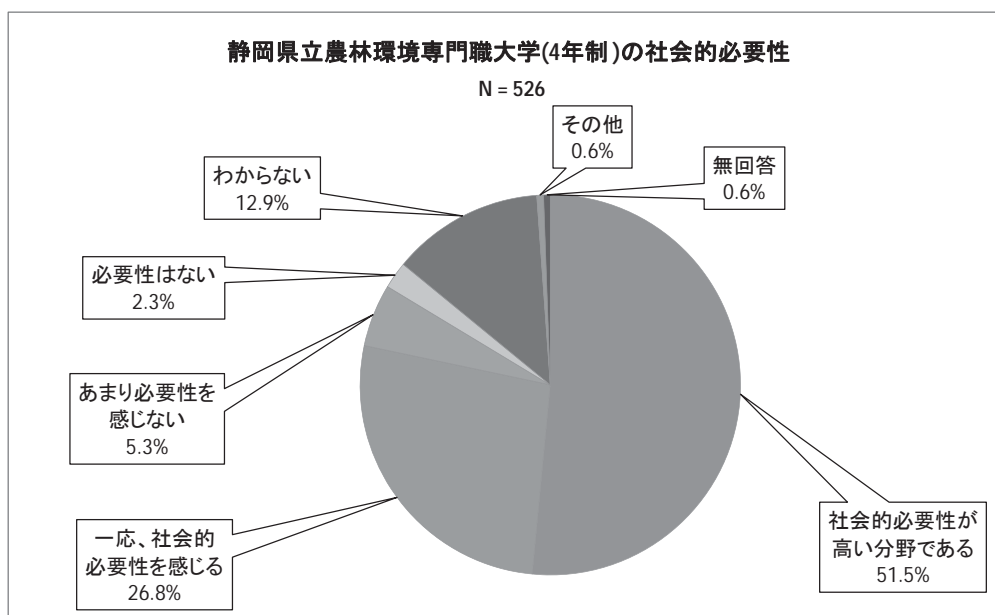
(7) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学の社会的必要性について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等526件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が271件(51.5%)と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」141件(26.8%)、「わからない」68件(12.9%)、「あまり必要性を感じない」28件(5.3%)、「必要性はない」12件(2.3%)、「その他」3件(0.6%)の順になっている。 ※「無回答」3件(0.6%)

なお、4年制の静岡県立農林環境専門職大学について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、412件(78.3%)となっている。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)の社会的必要性

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 271 | 51.5 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 141 | 26.8 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 28 | 5.3 |
| 4 | 必要性はない | 12 | 2.3 |
| 5 | わからない | 68 | 12.9 |
| 6 | その他 | 3 | 0.6 |
| | 無回答 | 3 | 0.6 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



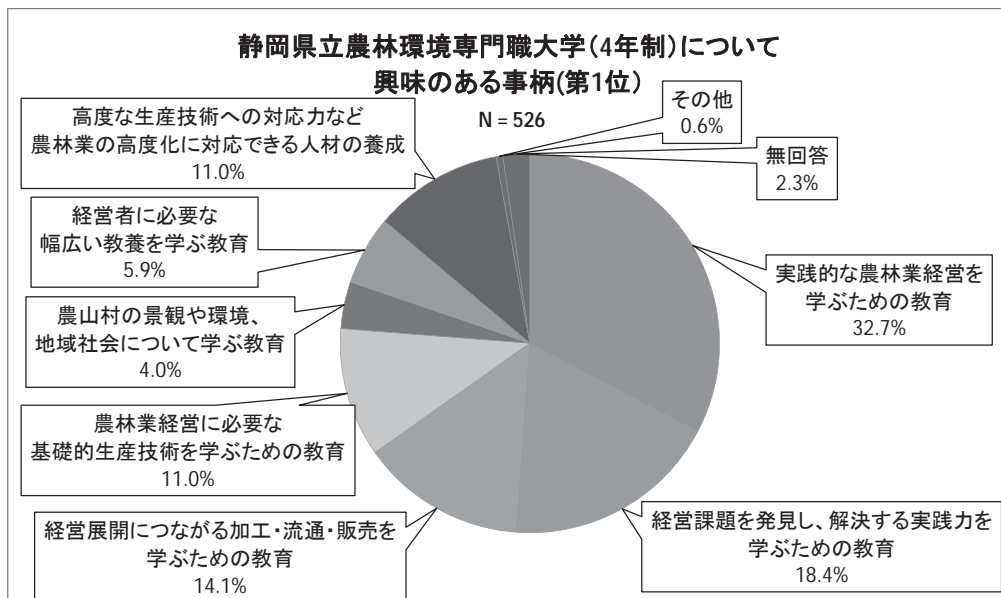
(8) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄について

8-1 4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第1位）について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第1位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「実践的な農林業経営を学ぶための教育」が 172 件（32.7%）と最も多く、次いで「経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育」97 件（18.4%）、「経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育」74 件（14.1%）、「農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育」58 件（11.0%）、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」58 件（11.0%）、「経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育」31 件（5.9%）、「農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育」21 件（4.0%）、「その他」3 件（0.6%）の順になっている。 ※「無回答」12 件（2.3%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第1位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------------------------|-----|-------|
| 1 | 実践的な農林業経営を学ぶための教育 | 172 | 32.7 |
| 2 | 経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育 | 97 | 18.4 |
| 3 | 経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育 | 74 | 14.1 |
| 4 | 農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育 | 58 | 11.0 |
| 5 | 農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育 | 21 | 4.0 |
| 6 | 経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育 | 31 | 5.9 |
| 7 | 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | 58 | 11.0 |
| 8 | その他 | 3 | 0.6 |
| | 無回答 | 12 | 2.3 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |

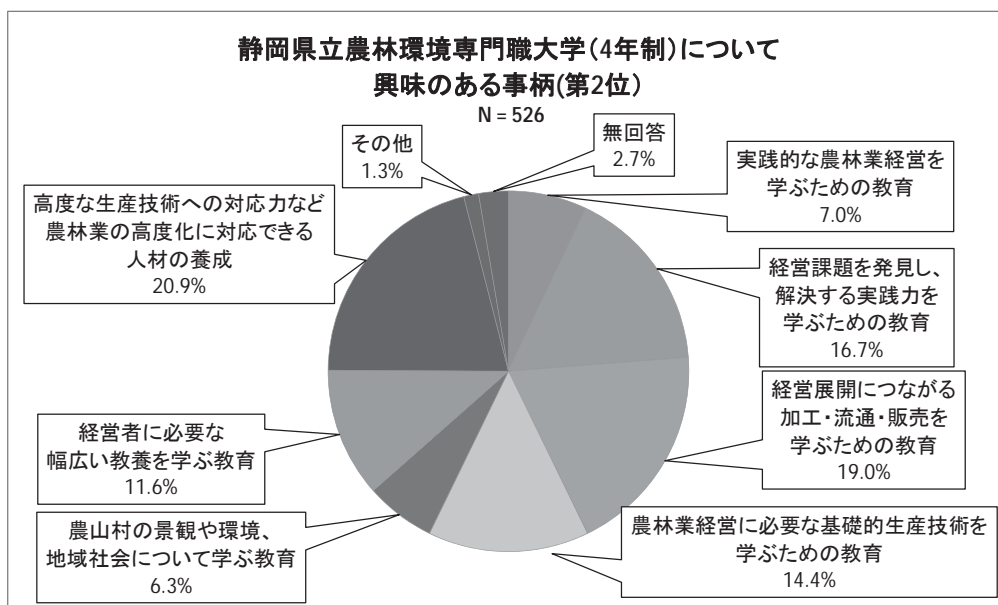


8-2 4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第2位）について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第2位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」が 110 件（20.9%）と最も多く、次いで「経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育」100 件（19.0%）、「経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育」88 件（16.7%）、「農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育」76 件（14.4%）、「経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育」61 件（11.6%）、「実践的な農林業経営を学ぶための教育」37 件（7.0%）、「農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育」33 件（6.3%）、「その他」7 件（1.3%）の順になっている。 ※「無回答」14 件（2.7%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第2位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------------------------|-----|-------|
| 1 | 実践的な農林業経営を学ぶための教育 | 37 | 7.0 |
| 2 | 経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育 | 88 | 16.7 |
| 3 | 経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育 | 100 | 19.0 |
| 4 | 農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育 | 76 | 14.4 |
| 5 | 農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育 | 33 | 6.3 |
| 6 | 経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育 | 61 | 11.6 |
| 7 | 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | 110 | 20.9 |
| 8 | その他 | 7 | 1.3 |
| | 無回答 | 14 | 2.7 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



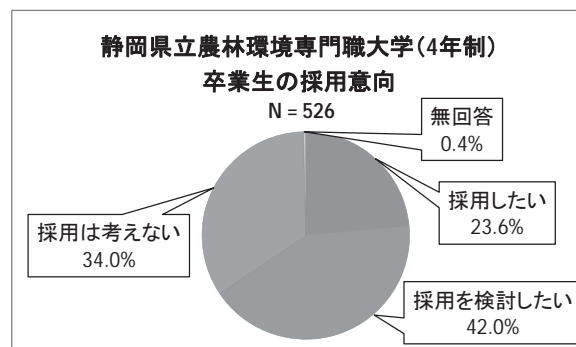
(9) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用を検討したい」が 221 件 (42.0%) と最も多く、次いで「採用は考えない」179 件 (34.0%)、「採用したい」124 件 (23.6%) の順になっている。 ※「無回答」2 件 (0.4%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、345 件 (65.6%) となっている。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 採用したい | 124 | 23.6 |
| 2 | 採用を検討したい | 221 | 42.0 |
| 3 | 採用は考えない | 179 | 34.0 |
| | 無回答 | 2 | 0.4 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



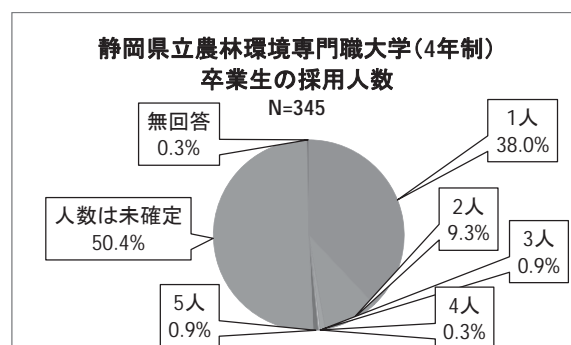
(10) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用人数について

「4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向」で肯定的な採用意向を示した 345 件に対して、4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」174 件 (50.4%) と最も多く、次いで「1人」が 131 件 (38.0%)、「2人」32 件 (9.3%)、「3人」3 件 (0.9%)、「5人」3 件 (0.9%)、「4人」1 件 (0.3%) の順になっている。

※「無回答」1 件 (0.3%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 1人 | 131 | 38.0 |
| 2 | 2人 | 32 | 9.3 |
| 3 | 3人 | 3 | 0.9 |
| 4 | 4人 | 1 | 0.3 |
| 5 | 5人 | 3 | 0.9 |
| 6 | 人数は未確定 | 174 | 50.4 |
| | 無回答 | 1 | 0.3 |
| | N (%ベース) | 345 | 100 |



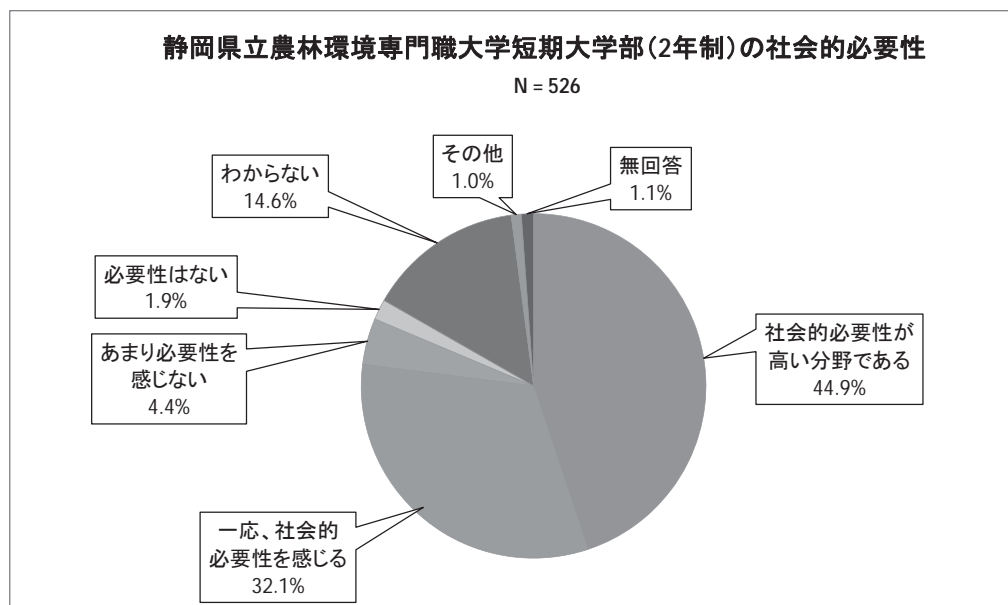
(11) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の社会的必要性について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 236 件 (44.9%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」169 件 (32.1%)、「わからない」77 件 (14.6%)、「あまり必要性を感じない」23 件 (4.4%)、「必要性はない」10 件 (1.9%)、「その他」5 件 (1.0%) の順になっている。 ※「無回答」6 件 (1.1%)

なお、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、405 件 (77.0%) となっている。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)の社会的必要性

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 236 | 44.9 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 169 | 32.1 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 23 | 4.4 |
| 4 | 必要性はない | 10 | 1.9 |
| 5 | わからない | 77 | 14.6 |
| 6 | その他 | 5 | 1.0 |
| | 無回答 | 6 | 1.1 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



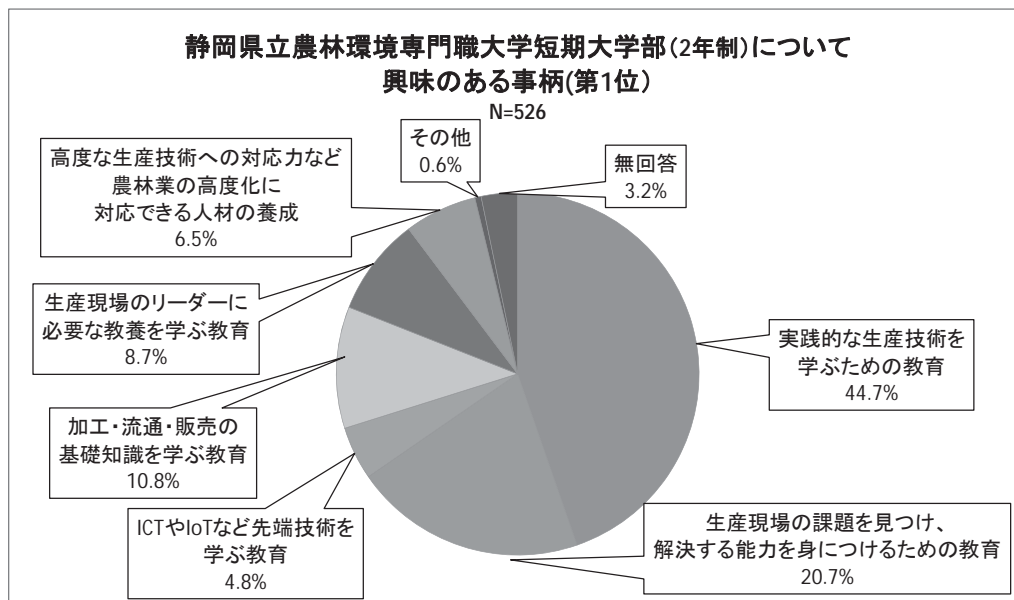
(12) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄について

12-1 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第1位)について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第1位)について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「実践的な生産技術を学ぶための教育」が 235 件 (44.7%) と最も多く、次いで「生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育」109 件 (20.7%)、「加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育」57 件 (10.8%)、「生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育」46 件 (8.7%)、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」34 件 (6.5%)、「ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育」25 件 (4.8%)、「その他」3 件 (0.6%) の順になっている。 ※「無回答」17 件 (3.2%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第1位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------------------------|-----|-------|
| 1 | 実践的な生産技術を学ぶための教育 | 235 | 44.7 |
| 2 | 生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育 | 109 | 20.7 |
| 3 | ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育 | 25 | 4.8 |
| 4 | 加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育 | 57 | 10.8 |
| 5 | 生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育 | 46 | 8.7 |
| 6 | 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | 34 | 6.5 |
| 7 | その他 | 3 | 0.6 |
| | 無回答 | 17 | 3.2 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |

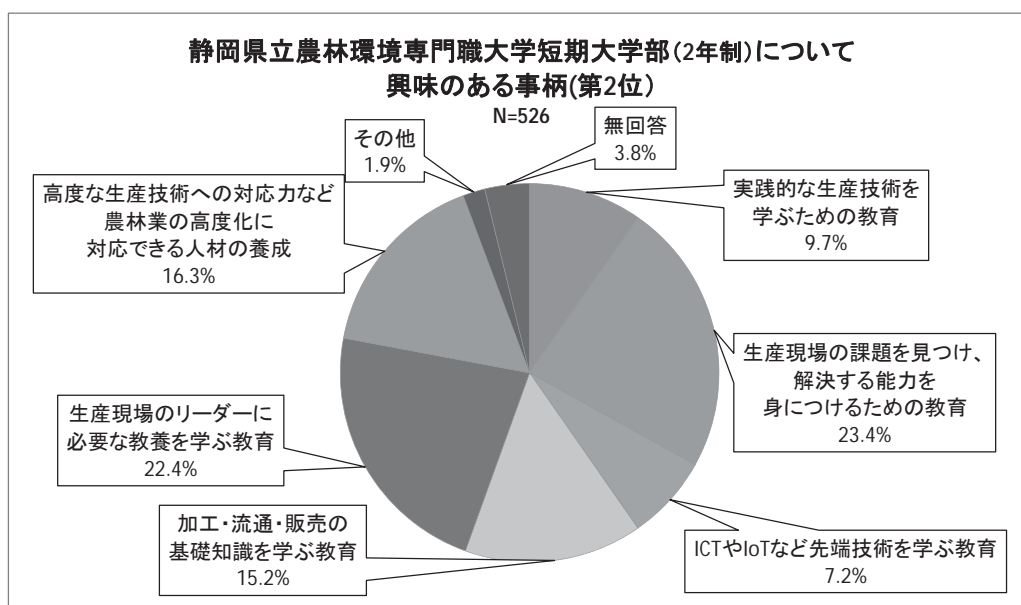


12-2 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第2位)について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第2位)について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育」が 123 件 (23.4%) と最も多く、次いで「生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育」118 件 (22.4%)、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」86 件 (16.3%)、「加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育」80 件 (15.2%)、「実践的な生産技術を学ぶための教育」51 件 (9.7%)、「ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育」38 件 (7.2%)、「その他」10 件 (1.9%) の順になっている。 ※「無回答」20 件 (3.8%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第2位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------------------------|-----|-------|
| 1 | 実践的な生産技術を学ぶための教育 | 51 | 9.7 |
| 2 | 生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育 | 123 | 23.4 |
| 3 | ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育 | 38 | 7.2 |
| 4 | 加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育 | 80 | 15.2 |
| 5 | 生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育 | 118 | 22.4 |
| 6 | 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | 86 | 16.3 |
| 7 | その他 | 10 | 1.9 |
| | 無回答 | 20 | 3.8 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



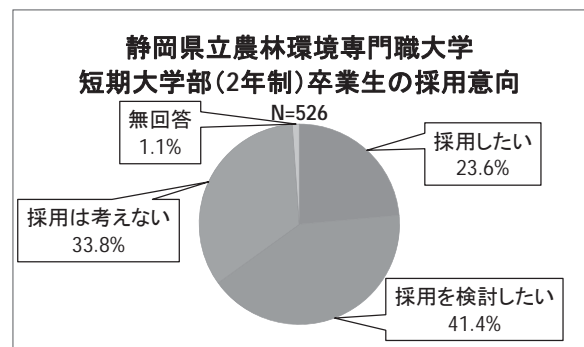
(13) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用を検討したい」が 218 件 (41.4%) と最も多く、次いで「採用は考えない」178 件 (33.8%)、「採用したい」124 件 (23.6%) の順になっている。 ※「無回答」6 件 (1.1%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、342 件 (65.0%) となっている。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 採用したい | 124 | 23.6 |
| 2 | 採用を検討したい | 218 | 41.4 |
| 3 | 採用は考えない | 178 | 33.8 |
| | 無回答 | 6 | 1.1 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |

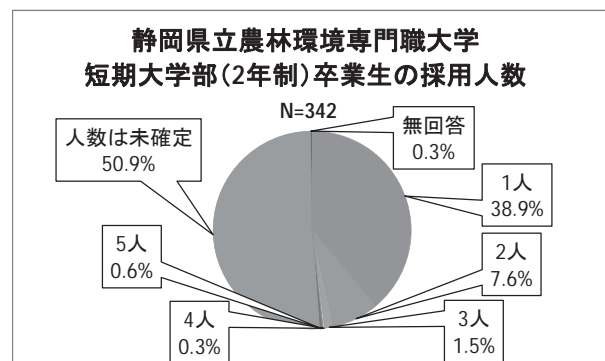


(14) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用人数について

「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向」で肯定的な採用意向を示した 342 件に対して、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」174 件 (50.9%) と最も多く、次いで「1人」が 133 件 (38.9%)、「2人」26 件 (7.6%)、「3人」5 件 (1.5%)、「5人」2 件 (0.6%)、「4人」1 件 (0.3%) の順になっている。 ※「無回答」1 件 (0.3%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 1人 | 133 | 38.9 |
| 2 | 2人 | 26 | 7.6 |
| 3 | 3人 | 5 | 1.5 |
| 4 | 4人 | 1 | 0.3 |
| 5 | 5人 | 2 | 0.6 |
| 6 | 人数は未確定 | 174 | 50.9 |
| | 無回答 | 1 | 0.3 |
| | N (%ベース) | 342 | 100 |



3. 調査結果のまとめ

(1) 静岡県立農林環境専門職大学

静岡県立農林環境専門職大学卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(9) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(10) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用人数について」の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(9) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下記の表より、4年制の静岡県立農林環境専門職大学の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、168人分となる。入学定員は24名であるため、7.0倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は397人となり、これは、入学定員24名に対して、16.54倍となる。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 卒業生の採用人数

| 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 のみ | | 合計 | |
|-----------------|---------------|-----|-----------|----|
| 1人(A) | 58 | (a) | (A) × (a) | 58 |
| 2人(B) | 23 | (b) | (B) × (b) | 46 |
| 3人(C) | 3 | (c) | (C) × (c) | 9 |
| 4人(D) | 1 | (d) | (D) × (d) | 4 |
| 5人以上(E) | 3 | (e) | (E) × (e) | 15 |
| 人数は未確定(F) | 36 | (f) | (F) × (f) | 36 |
| 無回答 | - | | | |

合計採用意向 168人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

| 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」「採用を 検討したい」の合計 | | 合計 | |
|-----------------|--------------------------|-----|-----------|-----|
| 1人(A) | 131 | (a) | (A) × (a) | 131 |
| 2人(B) | 32 | (b) | (B) × (b) | 64 |
| 3人(C) | 3 | (c) | (C) × (c) | 9 |
| 4人(D) | 1 | (d) | (D) × (d) | 4 |
| 5人以上(E) | 3 | (e) | (E) × (e) | 15 |
| 人数は未確定(F) | 174 | (f) | (F) × (f) | 174 |
| 無回答 | 1 | | | |

合計採用意向 397人

(2) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(13) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(14) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の将来的な採用人数について」の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(13) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の将来的な採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下記の表より、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、157人分となる。入学定員は100名であるため、1.57倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は388人となり、これは、入学定員100名に対して、3.88倍となる。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 卒業生の採用人数

| 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 のみ | | 合計 |
|-----------------|---------------|-----|--------------|
| 1人(A) | 65 | (a) | (A) × (a) 65 |
| 2人(B) | 18 | (b) | (B) × (b) 36 |
| 3人(C) | 4 | (c) | (C) × (c) 12 |
| 4人(D) | 1 | (d) | (D) × (d) 4 |
| 5人以上(E) | 1 | (e) | (E) × (e) 5 |
| 人数は未確定(F) | 35 | (f) | (F) × (f) 35 |
| 無回答 | - | | |

合計採用意向 157人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

| 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」「採用を 検討したい」の合計 | | 合計 |
|-----------------|--------------------------|-----|---------------|
| 1人(A) | 133 | (a) | (A) × (a) 133 |
| 2人(B) | 26 | (b) | (B) × (b) 52 |
| 3人(C) | 5 | (c) | (C) × (c) 15 |
| 4人(D) | 1 | (d) | (D) × (d) 4 |
| 5人以上(E) | 2 | (e) | (E) × (e) 10 |
| 人数は未確定(F) | 174 | (f) | (F) × (f) 174 |
| 無回答 | 1 | | |

合計採用意向 388人

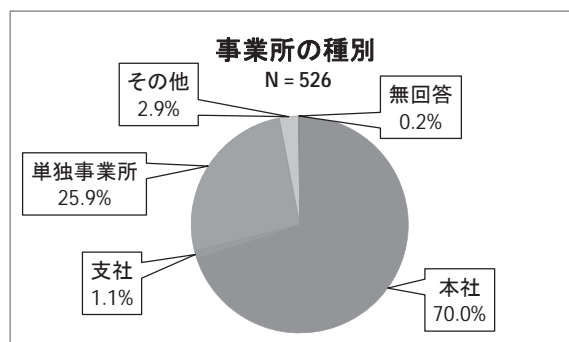
(3) まとめ

以上の調査結果と、今回の調査対象以外への進路も考えられることから、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

単純集計表

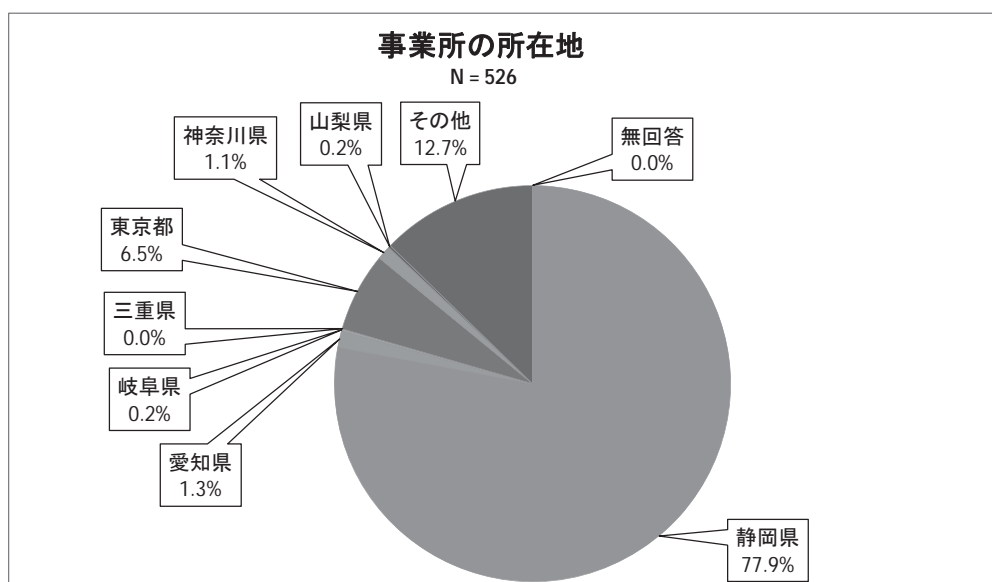
事業所の種別

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 本社 | 368 | 70.0 |
| 2 | 支社 | 6 | 1.1 |
| 3 | 単独事業所 | 136 | 25.9 |
| 4 | その他 | 15 | 2.9 |
| | 無回答 | 1 | 0.2 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



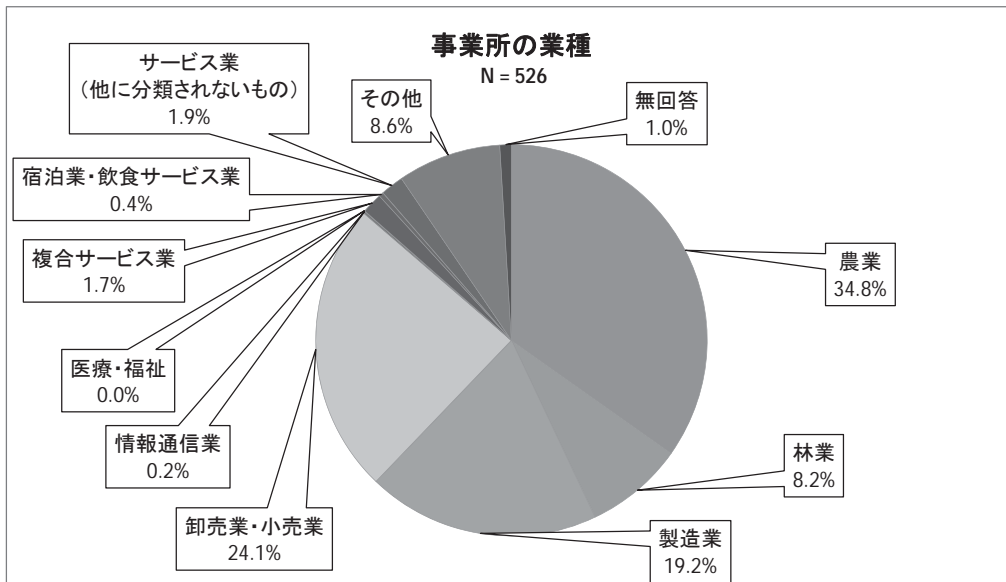
事業所の所在地

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 静岡県 | 410 | 77.9 |
| 2 | 愛知県 | 7 | 1.3 |
| 3 | 岐阜県 | 1 | 0.2 |
| 4 | 三重県 | 0 | 0.0 |
| 5 | 東京都 | 34 | 6.5 |
| 6 | 神奈川県 | 6 | 1.1 |
| 7 | 山梨県 | 1 | 0.2 |
| 8 | その他 | 67 | 12.7 |
| | 無回答 | 0 | 0.0 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



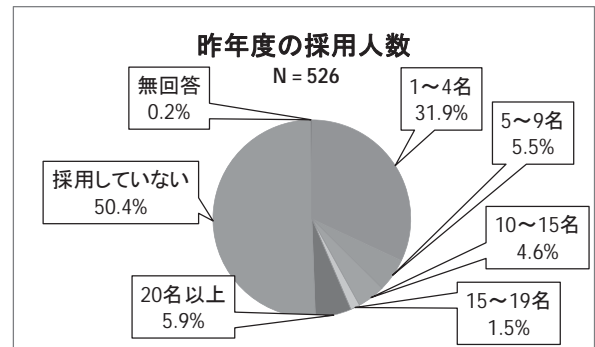
事業所の業種

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|-----|-------|
| 1 | 農業 | 183 | 34.8 |
| 2 | 林業 | 43 | 8.2 |
| 3 | 製造業 | 101 | 19.2 |
| 4 | 卸売業・小売業 | 127 | 24.1 |
| 5 | 情報通信業 | 1 | 0.2 |
| 6 | 医療・福祉 | 0 | 0.0 |
| 7 | 複合サービス業 | 9 | 1.7 |
| 8 | 宿泊業・飲食サービス業 | 2 | 0.4 |
| 9 | サービス業(他に分類されないもの) | 10 | 1.9 |
| 10 | その他 | 45 | 8.6 |
| | 無回答 | 5 | 1.0 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



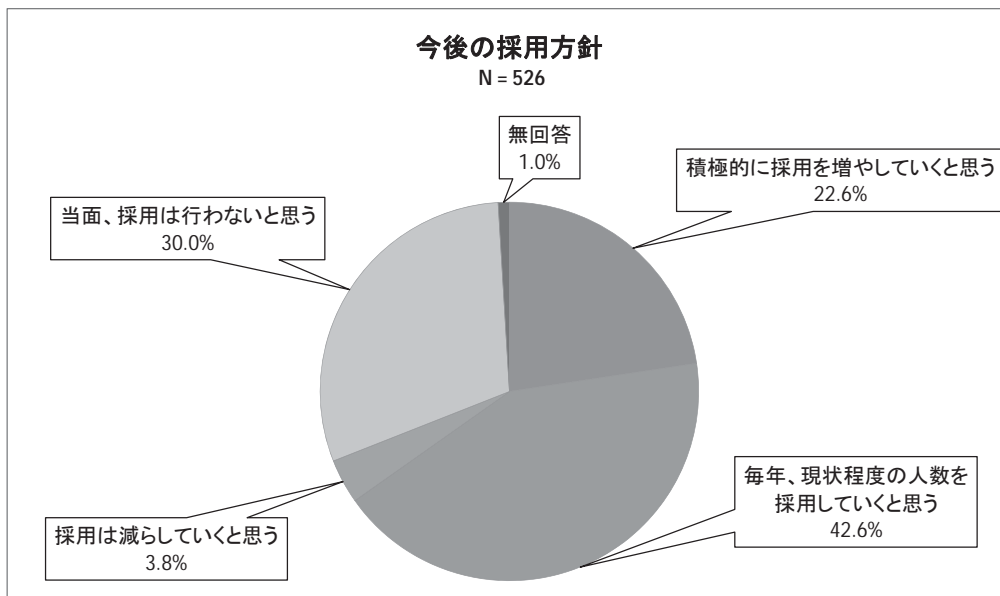
昨年度の採用人数

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 1～4名 | 168 | 31.9 |
| 2 | 5～9名 | 29 | 5.5 |
| 3 | 10～15名 | 24 | 4.6 |
| 4 | 15～19名 | 8 | 1.5 |
| 5 | 20名以上 | 31 | 5.9 |
| 6 | 採用していない | 265 | 50.4 |
| | 無回答 | 1 | 0.2 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



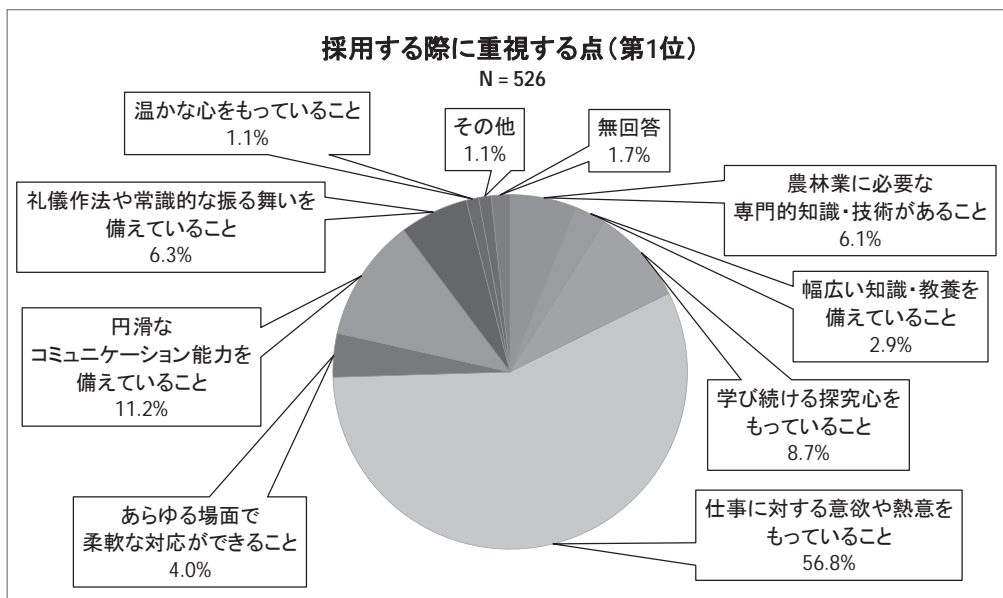
今後の採用方針

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------------|-----|-------|
| 1 | 積極的に採用を増やしていくと思う | 119 | 22.6 |
| 2 | 毎年、現状程度の人数を採用していくと思う | 224 | 42.6 |
| 3 | 採用は減らしていくと思う | 20 | 3.8 |
| 4 | 当面、採用は行わないと思う | 158 | 30.0 |
| | 無回答 | 5 | 1.0 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



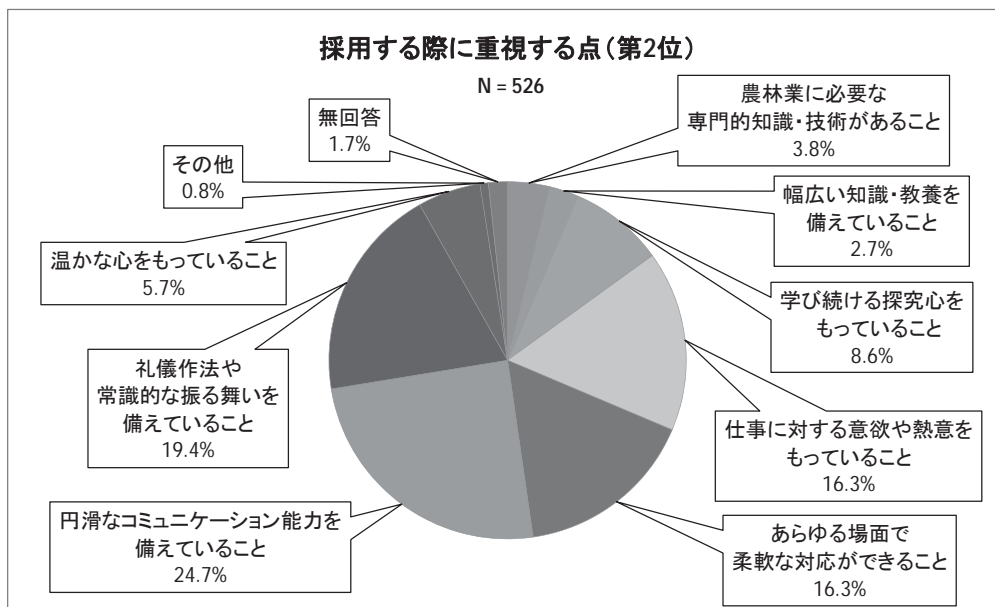
採用する際に重視する点(第1位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|------------------------|-----|-------|
| 1 | 農林業に必要な専門的知識・技術があること | 32 | 6.1 |
| 2 | 幅広い知識・教養を備えていること | 15 | 2.9 |
| 3 | 学び続ける探究心をもっていること | 46 | 8.7 |
| 4 | 仕事に対する意欲や熱意をもっていること | 299 | 56.8 |
| 5 | あらゆる場面で柔軟な対応ができること | 21 | 4.0 |
| 6 | 円滑なコミュニケーション能力を備えていること | 59 | 11.2 |
| 7 | 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること | 33 | 6.3 |
| 8 | 温かな心をもっていること | 6 | 1.1 |
| 9 | その他 | 6 | 1.1 |
| | 無回答 | 9 | 1.7 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



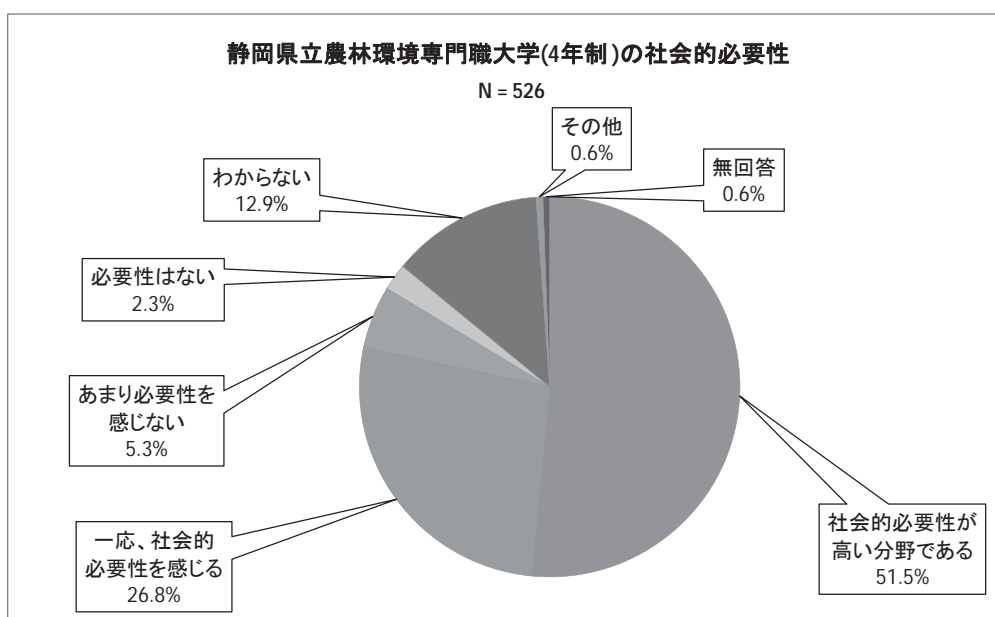
採用する際に重視する点(第2位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|------------------------|-----|-------|
| 1 | 農林業に必要な専門的知識・技術があること | 20 | 3.8 |
| 2 | 幅広い知識・教養を備えていること | 14 | 2.7 |
| 3 | 学び続ける探究心をもっていること | 45 | 8.6 |
| 4 | 仕事に対する意欲や熱意をもっていること | 86 | 16.3 |
| 5 | あらゆる場面で柔軟な対応ができること | 86 | 16.3 |
| 6 | 円滑なコミュニケーション能力を備えていること | 130 | 24.7 |
| 7 | 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること | 102 | 19.4 |
| 8 | 温かな心をもっていること | 30 | 5.7 |
| 9 | その他 | 4 | 0.8 |
| | 無回答 | 9 | 1.7 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



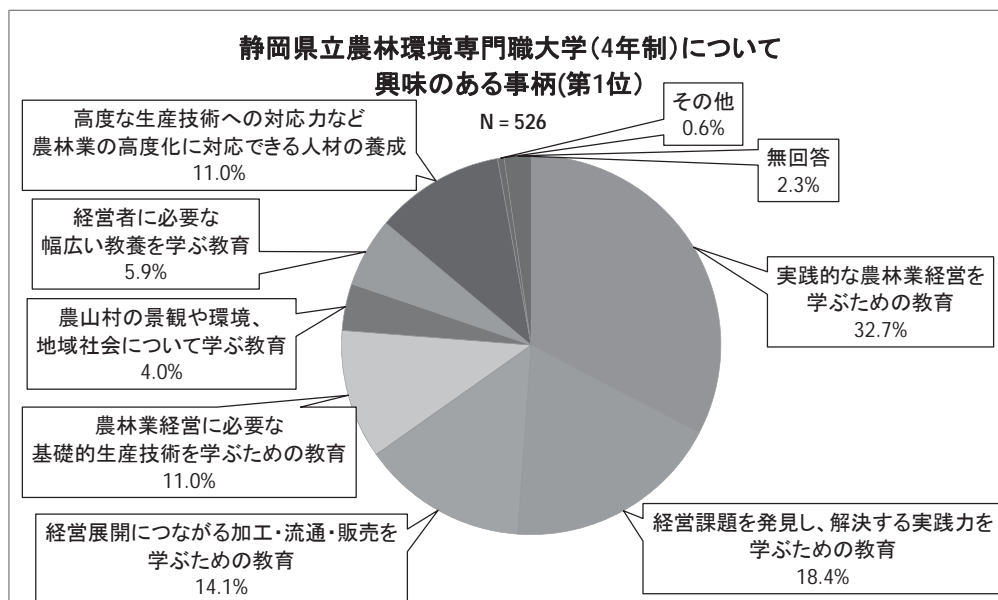
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)の社会的必要性

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 271 | 51.5 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 141 | 26.8 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 28 | 5.3 |
| 4 | 必要性はない | 12 | 2.3 |
| 5 | わからない | 68 | 12.9 |
| 6 | その他 | 3 | 0.6 |
| | 無回答 | 3 | 0.6 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



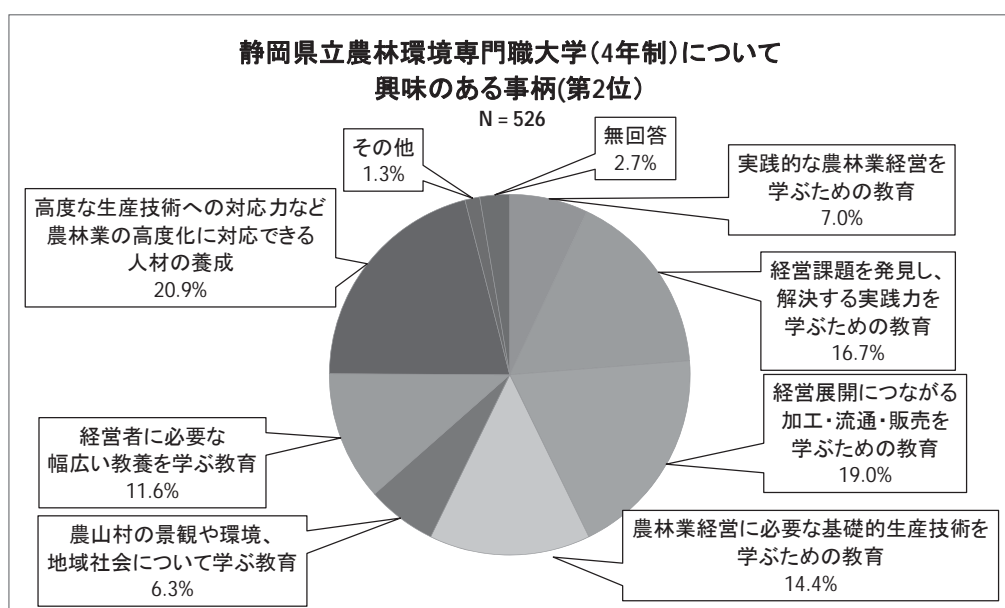
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第1位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------------------------|-----|-------|
| 1 | 実践的な農林業経営を学ぶための教育 | 172 | 32.7 |
| 2 | 経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育 | 97 | 18.4 |
| 3 | 経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育 | 74 | 14.1 |
| 4 | 農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育 | 58 | 11.0 |
| 5 | 農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育 | 21 | 4.0 |
| 6 | 経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育 | 31 | 5.9 |
| 7 | 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | 58 | 11.0 |
| 8 | その他 | 3 | 0.6 |
| | 無回答 | 12 | 2.3 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



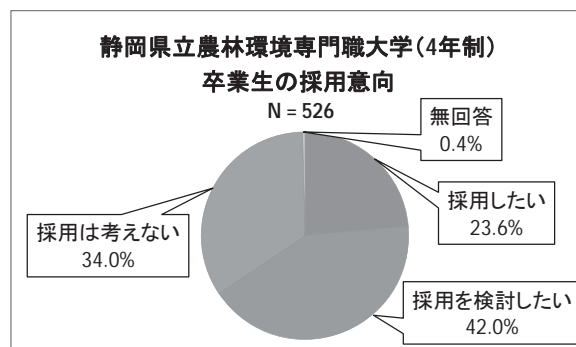
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第2位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------------------------|-----|-------|
| 1 | 実践的な農林業経営を学ぶための教育 | 37 | 7.0 |
| 2 | 経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育 | 88 | 16.7 |
| 3 | 経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育 | 100 | 19.0 |
| 4 | 農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育 | 76 | 14.4 |
| 5 | 農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育 | 33 | 6.3 |
| 6 | 経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育 | 61 | 11.6 |
| 7 | 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | 110 | 20.9 |
| 8 | その他 | 7 | 1.3 |
| | 無回答 | 14 | 2.7 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



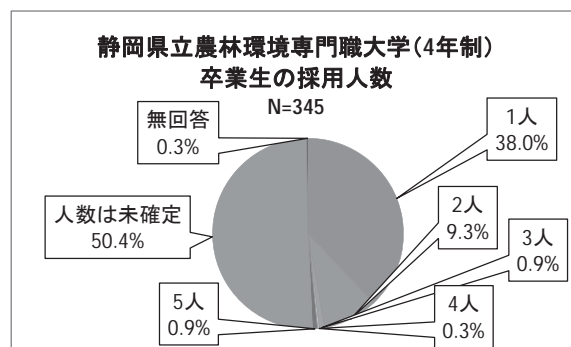
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 採用したい | 124 | 23.6 |
| 2 | 採用を検討したい | 221 | 42.0 |
| 3 | 採用は考えない | 179 | 34.0 |
| | 無回答 | 2 | 0.4 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



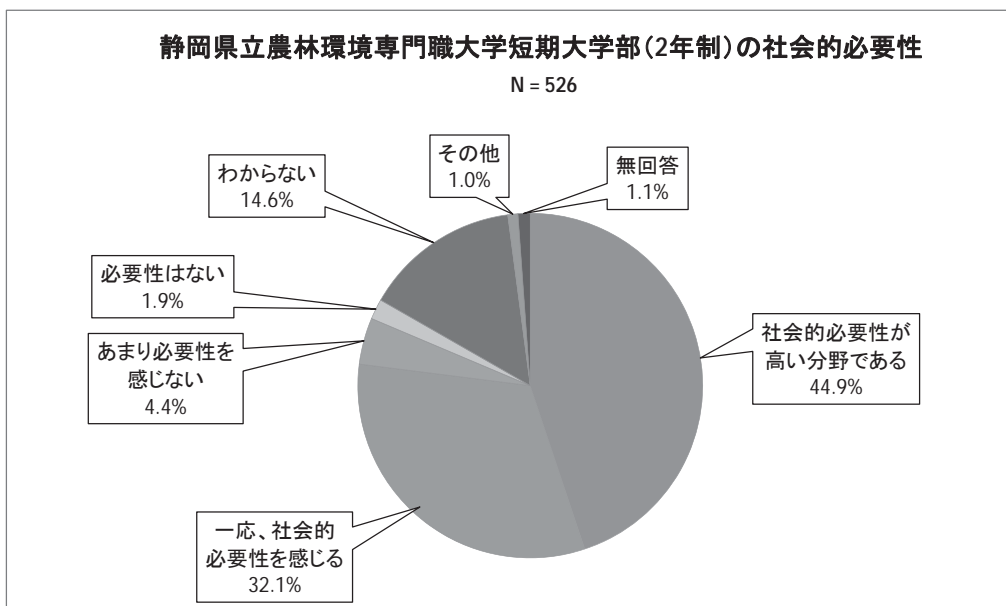
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 1人 | 131 | 38.0 |
| 2 | 2人 | 32 | 9.3 |
| 3 | 3人 | 3 | 0.9 |
| 4 | 4人 | 1 | 0.3 |
| 5 | 5人 | 3 | 0.9 |
| 6 | 人数は未確定 | 174 | 50.4 |
| | 無回答 | 1 | 0.3 |
| | N (%ベース) | 345 | 100 |



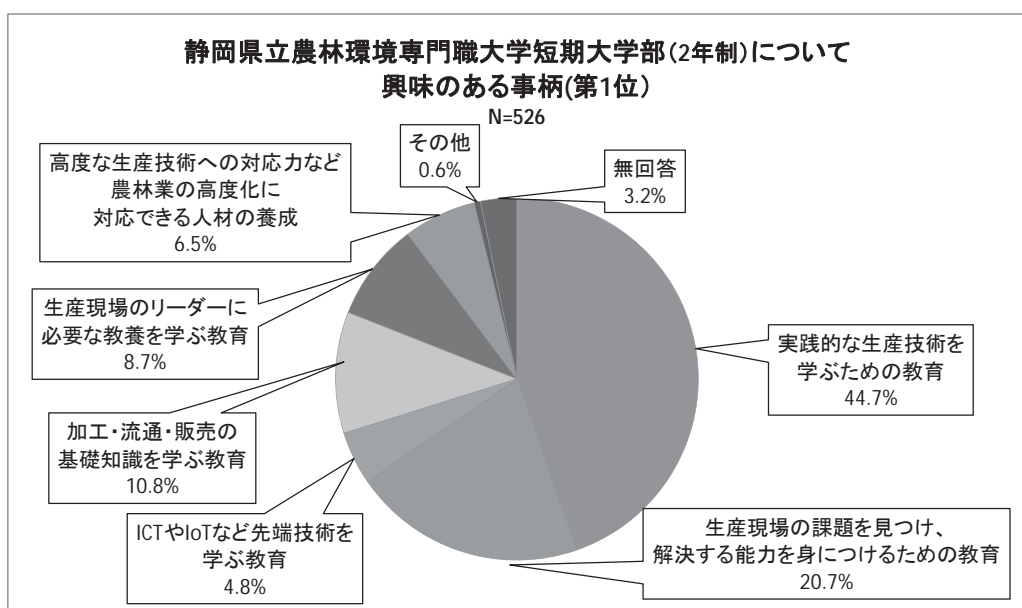
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)の社会的必要性

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 236 | 44.9 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 169 | 32.1 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 23 | 4.4 |
| 4 | 必要性はない | 10 | 1.9 |
| 5 | わからない | 77 | 14.6 |
| 6 | その他 | 5 | 1.0 |
| | 無回答 | 6 | 1.1 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



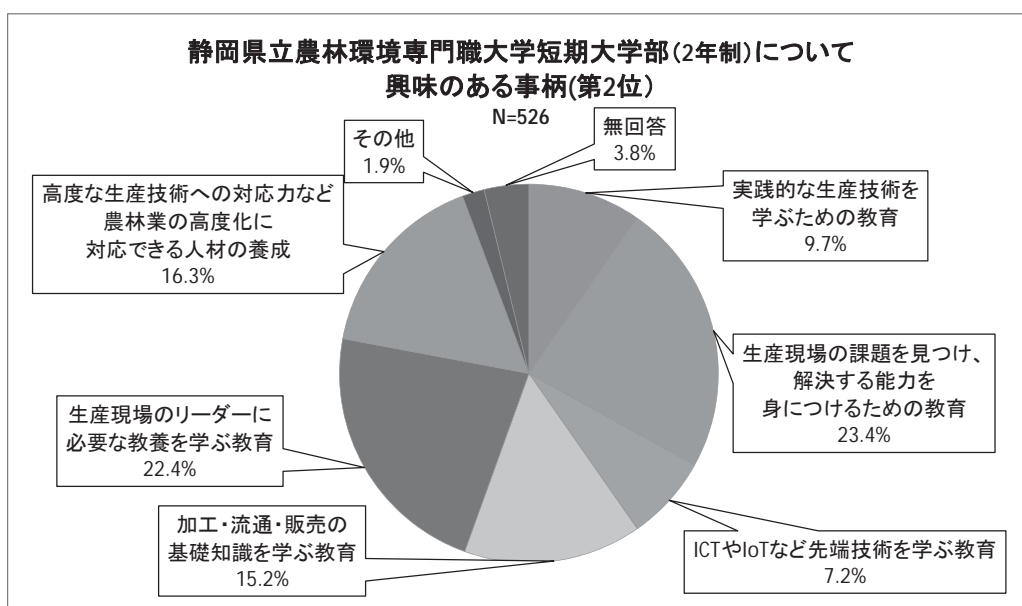
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第1位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------------------------|-----|-------|
| 1 | 実践的な生産技術を学ぶための教育 | 235 | 44.7 |
| 2 | 生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育 | 109 | 20.7 |
| 3 | ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育 | 25 | 4.8 |
| 4 | 加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育 | 57 | 10.8 |
| 5 | 生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育 | 46 | 8.7 |
| 6 | 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | 34 | 6.5 |
| 7 | その他 | 3 | 0.6 |
| | 無回答 | 17 | 3.2 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



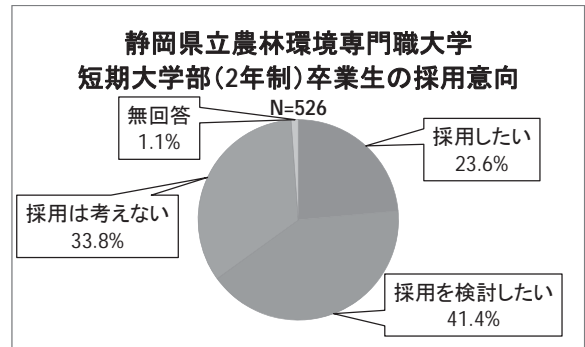
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第2位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------------------------------|-----|-------|
| 1 | 実践的な生産技術を学ぶための教育 | 51 | 9.7 |
| 2 | 生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育 | 123 | 23.4 |
| 3 | ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育 | 38 | 7.2 |
| 4 | 加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育 | 80 | 15.2 |
| 5 | 生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育 | 118 | 22.4 |
| 6 | 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | 86 | 16.3 |
| 7 | その他 | 10 | 1.9 |
| | 無回答 | 20 | 3.8 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



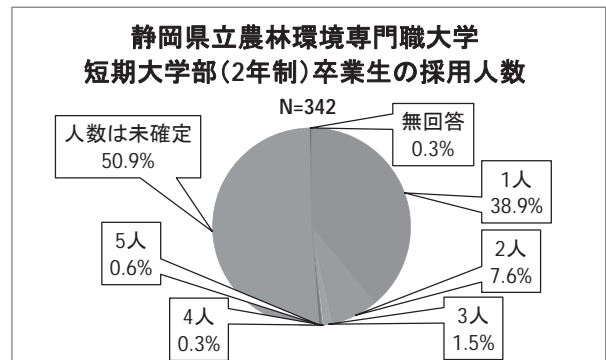
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 採用したい | 124 | 23.6 |
| 2 | 採用を検討したい | 218 | 41.4 |
| 3 | 採用は考えない | 178 | 33.8 |
| | 無回答 | 6 | 1.1 |
| | N (%ベース) | 526 | 100 |



静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 1人 | 133 | 38.9 |
| 2 | 2人 | 26 | 7.6 |
| 3 | 3人 | 5 | 1.5 |
| 4 | 4人 | 1 | 0.3 |
| 5 | 5人 | 2 | 0.6 |
| 6 | 人数は未確定 | 174 | 50.9 |
| | 無回答 | 1 | 0.3 |
| | N (%ベース) | 342 | 100 |



調查票

**静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置に係るアンケート調査**

- ・このアンケート調査は、2020年4月に開学を予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置計画の基礎資料とするため、貴社・貴施設の人材採用方針等についてお聞きするものです。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ使い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄の □ の中に直接、御記入ください。

回答締め切りのお願い

2018年8月10日（金）までに、同封の返信用封筒にて御投函いただきますようお願いいたします。

【 貴社・貴施設についてお伺いします 】

【回答欄】

問1． 本社・支社・事業所等について、お聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 本社 2. 支社 3. 単独事業所 4. その他（ ）

問2． 所在地について、お聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 静岡県 4. 三重県 7. 山梨県
2. 愛知県 5. 東京都 8. その他（ ）
3. 岐阜県 6. 神奈川県

問3． 業種について、お聞きします。次の中から最も当てはまる番号を1つお選びください。

1. 農業 5. 情報通信業 9. サービス業(他に分類されないもの)
2. 林業 6. 医療・福祉 10. その他
3. 製造業 7. 複合サービス業 (具体的に:)
4. 卸売業・小売業 8. 宿泊業・飲食サービス業

問4． 昨年度（平成30年4月入社）に新卒採用された人数について、次の中から該当する番号を1つお選びください。（支社または単独事業所でお答えいただいている場合は、そちらでの採用数をお願いします）

1. 1～4名 3. 10～15名 5. 20名以上 番号で御回答ください
2. 5～9名 4. 15～19名 6. 採用していない

問5． 今後の人材採用について、どのようにお考えですか。お考えに近い番号を1つお選びください。

1. 積極的に採用を増やしていくと思う
2. 毎年、現状程度の人数を採用していくと思う
3. 採用は減らしていくと思う
4. 当面、採用は行わないと思う

問6． 人材を採用する際に、貴社・貴施設ではどのようなことを重視していますか。該当する番号を第2位までお選びください。

- | | | |
|---|-----|----------------------|
| 1. 農林業に必要な専門的知識・技術があること | 第1位 | <input type="text"/> |
| 2. 幅広い知識・教養を備えていること | | |
| 3. 学び続ける探究心をもっていること | | |
| 4. 仕事に対する意欲や熱意をもっていること | 第2位 | <input type="text"/> |
| 5. あらゆる場面で柔軟な対応ができること | | |
| 6. 円滑なコミュニケーション能力を備えていること | | |
| 7. 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること | | |
| 8. 温かな心をもっていること | | |
| 9. その他（具体的に:) | | |

⇨ 次のページへお進みください ⇨

ここからは、同封のリーフレット

「静岡県立 農林環境専門職大学（仮称） 農林環境専門職大学短期大学部（仮称）」

を御覧になりながらお答えください。

【 4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）についておたずねします。 】

問7. 設置を計画している4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | |
|-------------------|----------------------|--------------------------|
| 1. 社会的必要性が高い分野である | 4. 必要性はない | <input type="checkbox"/> |
| 2. 一応、社会的必要性を感じる | 5. わからない | |
| 3. あまり必要性を感じない | 6. その他（具体的に: _____) | |

問8. 設置を計画している4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の特徴や目指している事柄について、興味のあるものはどれですか。興味の高い順に第2位までお選びください。

- | | | |
|-------------------------------------|-----|--------------------------|
| 1. 実践的な農林業経営を学ぶための教育 | 第1位 | <input type="checkbox"/> |
| 2. 経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育 | | |
| 3. 経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育 | 第2位 | <input type="checkbox"/> |
| 4. 農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育 | | |
| 5. 農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育 | | |
| 6. 経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育 | | |
| 7. 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | | |
| 8. その他（具体的に: _____) | | |

問9. 設置を計画している4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の卒業生の将来的な採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | | | |
|-----------------------|---|-----------------------|---------------------|--------------------------|
| 1. 採用したい | } <table border="1" style="border-collapse: collapse; padding: 2px;"><tr><td>1、2を選ばれた方は問10へお進みください</td></tr><tr><td>3を選ばれた方は問11へお進みください</td></tr></table> | 1、2を選ばれた方は問10へお進みください | 3を選ばれた方は問11へお進みください | <input type="checkbox"/> |
| 1、2を選ばれた方は問10へお進みください | | | | |
| 3を選ばれた方は問11へお進みください | | | | |
| 2. 採用を検討したい | | | | |
| 3. 採用は考えない | | | | |

問10. 問9で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選択した方におたずねします。選択した4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | |
|-------|-----------|---|
| 1. 1人 | 4. 4人 | { 番号で御回答ください } <input type="checkbox"/> |
| 2. 2人 | 5. 5人以上 | |
| 3. 3人 | 6. 人数は未確定 | |

【 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)についておたずねします。 】

問 11 . 設置を計画している 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | | |
|-------------------|--------------|---|
| 1. 社会的必要性が高い分野である | 4. 必要性はない |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 一応、社会的必要性を感じる | 5. わからない | |
| 3. あまり必要性を感じない | 6. その他(具体的に: | |

問 12 . 設置を計画している 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の特徴や目指している事柄について、興味のあるものはどれですか。興味の高い順に第 2 位までお選びください。

- | | | |
|-------------------------------------|-------|---|
| 1. 実践的な生産技術を学ぶための教育 | 第 1 位 |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育 | 第 2 位 | |
| 3. ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育 | |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 4. 加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育 | | |
| 5. 生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育 | | |
| 6. 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | | |
| 7. その他(具体的に: | | |

問 13 . 設置を計画している 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の卒業生の将来的な採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | |
|-------------|---|
| 1. 採用したい | } <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 採用を検討したい | |
| 3. 採用は考えない | |
- 1、2 を選ばれた方は問 14 へお進みください

3 を選ばれた方は問 15 へお進みください

問 14 . 問 13 で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選択した方におたずねします。2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | | |
|--------|-----------|---|
| 1. 1 人 | 4. 4 人 |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 2 人 | 5. 5 人以上 | |
| 3. 3 人 | 6. 人数は未確定 | |

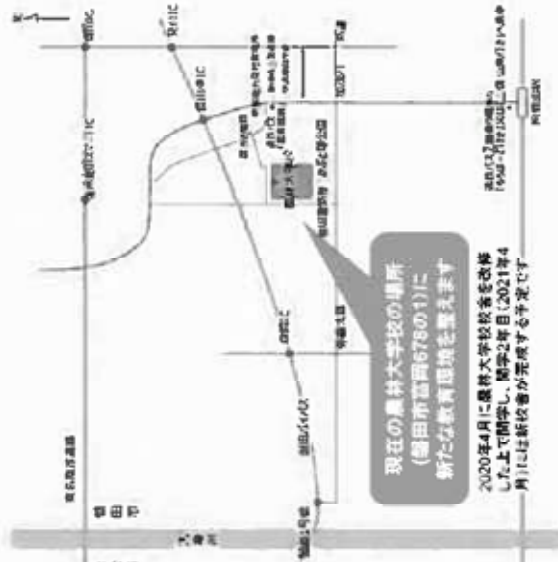
問 15 . 構想している静岡県立農林環境専門職大学(仮称)、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の設置計画にあたり、御意見・御要望がありましたら、御自由にお書きください。

御協力ありがとうございました

資格免許取得等について

- 授業の中で取得に取り組める資格・免許（予定）
 - 大型特殊自動車運転免許（仮免許）、農業技術師補、日本農アトバイザー、労働安全衛生師免許、フォークリフト運転技能講習修了証、EPA（大塚水等）特別教員、環境免許、簿記検定など
 - ※4年制、2年制ともに取得が可能です（専攻分野によって取得できるものがあります）。また、取得費用は別途必要です。
- 農林業の担い手を目指す学生の就農を支援する給付金制度
 - ・農業次世代人材投資事業（産直型）
 - ・若の青年就職促進給付金事業
 - ※成立後1年以内の就業などの条件を満たす必要があります。給付要件を満たさなくなると給付金請求を拒否し、返ればなりません。
- 共同生活を通じて協同性を養う学生生活
 - ・4年制、2年制ともに、1年生は別荘（全寮制）にすることを検討しています。
- 現在の農林大学校の男女比
 - ・学生の男女比は男性：女性＝2：1で、9人に1人は女性の学生です。

交通アクセス



現在の農林大学校の場所
(畑田所番地6780-1)に
新たな教育環境を築きます

2020年4月に農林大が校舎を改装した上で開学し、開学2年目(2021年4月)には新校舎が完成する予定です

【電車・バスでのアクセス】

- 東京方面より 新幹線「JR東海道新幹線」下車 東海駅→東海道本線「JR常陸田駅」下車
- 名古屋方面より 新幹線「JR東海道新幹線」下車 東海駅→東海道本線「JR常陸田駅」下車
- JR常陸田駅北口 バスロータリーより徒歩約10分(10分)→徒歩(10分)

お問い合わせ

特任教授経済学部長 室井隆志とジンス課 専門職入学生課 TEL: 054-221-2734
〒420-8501 静岡県袋井市袋井9番6号 袋井支店9階 FAX: 054-221-3688

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。



静岡県立 農林環境専門職大学 (仮称) 農林環境専門職大学 (仮称) 短期大学部 (仮称)

2020年4月
開学予定
(設置構想中)

静岡県では、静岡県立農林大学校を、農林業者を養成する専門学校として、本県の農林業の発展に貢献してこましたが、近年の農林業経営の規模拡大や多様化に対応するため、このたび4年制の専門職入学生と2年制の専門職短期入学生への移行を検討しています。

専門職大学とは？

2019年4月から新たに創設される実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関です。

多岐の産業界分野（農業や観光、情報など）において、専門職入校者で実践的な職業的スキルを身につけ、新たな産業に貢献できる人材を育成する目的で創設されています。

特に、正業での実践教育や産業界との連携に力を入れる計画等があり、高度な「実践力」や豊かな「創造性」を培うことが重要で、多くの点が特長となっております。

【新たな高等専門学校】



| | |
|---------|------------------------------|
| ■設置者 | 静岡県が設置する、公立の専門職大学及び専門職短期大学 |
| ■学部・学科名 | 生産環境経営学部(仮称) 生産環境経営学科(仮称) |
| 4年制 | 入学定員 24名(予定) |
| 2年制 | 入学定員 100名(予定) |

■開学時期
2020年4月の開学を目標とし、大学設置認可申請の準備を進めています。

■学位等
専門職大学の卒業生には、「学士(専門職)」と専門職短期大学の卒業生には「短期大学士(専門職)」の学位がそれぞれ授与されます。これらは、4年制大学や短期大学の卒業生に与えられる「学士」短期大学士と同等のもので

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

○「耕土耕心（大地を耕し、心を耕す）」の理念のもとに、多くの実習を行い、農林業のプロフェッショナルを養成します
農林大学校の校訓「耕土耕心」＝「むたいに汗し、土にまみれて大地を耕すことにより、自分を知り、自分の心を成長させ、立派な人間性をつくりあげることができる。大地を耕すことは自らからの心を耕すことである」という理念を引き継ぎ、実学を重んじ、社会に貢献する畑で年間を通じた栽培等の実習や、先進的企業でのインターンを実施するとともに、豊かな人間性を養い視野を広げる就業教育を提供します。

○人々の食やくらしを支え、新たな可能性が広がる農林業の、あらゆるシーンに対応できる力を養います

・農林業現場における経営知識の拡大や新しい技術の導入などに貢献することができるよう、基礎的な生産知識や技術に加え、農林業を取り巻く多様なシーンについて学べます。
・農山村の新しい役割として注目を集めている、美しい景観の形成や自然環境の保全などについて学び、農林業を通じて自然と共生しながら地域を支えていく農林業人を養成します。

○全国初の農林業分野の専門職大学です

農林業分野では全国初の公立の専門職大学及び専門職短期大学となる見込みです。専門職大学卒業生には「学士（専門職）」、専門職短期大学卒業生には「短期大学士（専門職）」の学位がそれぞれ授与されます。

農林環境専門職大学 (短大)

生産環境経営学科 (短科) 入学定員 24名 (予定) 4年制

POINT
1

農林業経営の現場で生まれる課題に柔軟に対応しながら、経営の中心として自らの夢を実現できる農林業者の養成を目指します。

○高度な生産技術に加え、マーケティングの視点に立った商品の安全性や食味の保証、販路開拓など、生産者の責任と責任の手法を学べます。

○農林業経営者層でのインターンを通じ、実際の経営課題の解決方法を提案する、実践的なプロジェクト実習を行います。

POINT
2

風土・環境や地域の文化を守り、自然と共生していくことのできる、豊かな人間性を持った農林業者の養成を目指します。

○新創作物種など、近年注目を集めている農山村の多様な役割を学べます。



実践的な農林業経営を学ぶカリキュラム

★経営者の公算のほかに、経営者としての実践的な知識を身に付けます。

★経営者としての公算のほかに、経営者としての実践的な知識を身に付けます。

★農林業経営に必要な経営者としての実践的な知識を身に付けます。また、農山村が持つ特徴や課題について学びます。

★農林業経営に必要な経営者としての実践的な知識を身に付けます。また、農山村が持つ特徴や課題について学びます。

★経営者としての公算のほかに、経営者としての実践的な知識を身に付けます。

★経営者としての公算のほかに、経営者としての実践的な知識を身に付けます。

農林業経営のプロフェッショナルを目指す

新しい視点でチャレンジする農林業経営体後継者や幹部、農林業経営体の立上げ、農林業へ参入する企業へ就職、技術指導・普及を行う公務員、JA・森林組合の職員 等



農林環境専門職大学 (短大)

生産科学科 (短科) 入学定員 100名 (予定) 2年制

POINT
1

確かな生産知識と技術を持つ、生産現場で即戦力として活躍するスペシャリスト農林業者の養成を目指します。

○作物別（野菜・花き、野菜、果樹、林産品、畜産等）に実践的な生産知識と技術を習得できます。

POINT
2

生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識・技術と応用力を身に付けます。

○農林業経営者層でのインターンを通じ、生産現場で実践的な知識を身に付けます。

○ICTやIoTなど、農林業現場に導入が進んでいる先端技術を学べます。



実践的な生産技術を学ぶカリキュラム

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。また、農山村が持つ特徴や課題について学びます。

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。また、農山村が持つ特徴や課題について学びます。

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

生産現場のプロフェッショナルを目指す

確かな生産技術・知識を持った農林業後継者、農林業経営体生産現場のリーダー、農林業関連企業（食品・種苗等）への就職 等



※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

平成 30 年 7 月 17 日

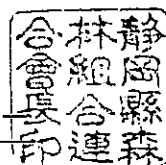
経済産業部理事 (林業・森の防潮堤推進担当)

西島 潔 様

平成 31 年度 森林・林業施策に係る要請書

静岡県森林組合連合会 会長

中谷 多加



静岡県木材協同組合連合会 会長

滝浪 龍司

公益社団法人 静岡県山林協会 会長

鈴木 康友

静岡県山林種苗協同組合連合会 会長

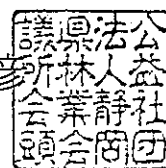
大杉 好基

静岡県椎茸産業振興協議会 会長

菊地 豊

公益社団法人静岡県林業会議所 会頭

大富部 喜彦



はじめに

静岡県におかれては、スギ・ヒノキ人工林資源が十分に成熟したことを背景に県産材の需要と供給を一体的に創造する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト第2ステージ」を重点的に進めていただきました。その結果、平成29年には素材生産量46.3万立方メートルを達成するまでに至りました。また、本年度からは、新たな総合計画のもとで「ふじのくに林業成長産業化」に取り組んでいただいていることから、本県の森林・林業・木材産業に明るい展望が開けてきていることに心より感謝申し上げます。

また、温暖化の影響等により全国的に異常な豪雨による山地災害が頻発しているなか、災害の誘因ともなりかねない荒廃森林につきましては「森の力再生事業」などにより、整備が着実に進められていることに重ねて感謝申し上げます。

さて近年、東海地域では新たな大型合板工場、製材工場などの新設が相次ぎ木材需要が急激に増加する中、来年度から「新たな森林管理システムと森林環境譲与税（仮称）」の開始が決定されるなど、森林・林業界を取り巻く環境は大きく変革しています。我々はこれを契機として林業・木材産業や中山間地の振興を一層進める所存です。

しかしながら現状では需要増加に対応する集約化や生産性の高い技術の導入の遅れ、専門技術者や作業員の不足、シカ等による造林木食害などの問題が山積みになっています。また一方では山地災害の発生や松くい虫被害による海岸防災林の機能低下、高波による防潮堤侵食の進行など、県民の生活は依然として脅かされています。

このように森林・林業・木材産業や中山間地を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。私ども森林・林業・木材産業関係6団体は、本県の森林の多面的機能を持続的かつ高度に発揮させて、県民福祉の増進と県勢の発展に貢献するため、多くの関係者と相協力しながら、森林の保全・整備、林業・木材産業の振興、森林整備の担い手の育成等に鋭意努めていく所存であります。

つきましては、平成31年度森林・林業施策に係る要請事項を以下のとおり取り纏めましたので、「治山事業」「森林整備事業」「木材産業振興」「山村振興」等の各種施策について、特段の御配慮のもと県独自の強力な施策を講じていただけますようお願い致します。

公益社団法人静岡県山林協会

1. 県土の保全、森林・林業・木材産業関係予算の確保

- ・ 県土の64%を占める森林は、木材の産出機能をはじめ、水源涵養・防災機能など県民にとって何ものにも代えることができない多面的な機能を有しています。
- ・ 我々はこれをよく理解し、各団体の連携や県との連携により森林の適正な整備や保全に努力しているところでありますので、下記項目にご配慮願います。

① 治山・林道、林業・木材産業の成長産業化に関する予算の確保

【特に確保を要望する予算】

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック（自転車競技）や世界遺産に関連した道路沿線等の森林景観整備に関する予算
- ・ “ふじのくに森の防潮堤づくり”に関する予算
- ・ 山間地の荒廃森林における治山事業に関する予算

2. 森林環境譲与税事業（仮称）の円滑な実施に向けた指導助言

- ・ 平成31年度から森林環境譲与税（仮称）による事業が開始されますが、市町では専門技術者が不足しており円滑な執行に支障が生じる可能性があります。
- ・ また森林環境譲与税事業（仮称）の実施にあたり市町間の連携や県実施の森の力再生事業との調整により公益的機能の早期発揮が期待できます。
- ・ このため下記項目について指導・助言等の支援を要望します。

② 森林環境譲与税（仮称）を活用した事業の円滑な実施に向けた市町、事業者への指導・助言等の支援

③ 森林の公益的機能の早期発揮に向けた森林環境譲与税事業（仮称）と森の力再生事業との調整

3. 森林・林業を託す人材の育成

- ・ 林業事業者の技術者不足が深刻化しており、技術者の安定的な養成・供給に向け技術者教育機関の再整備を進めることが緊急かつ重要です。
- ・ また、本県有効求人倍率が昨年4月以降1.5倍を超え各業界で新規就業者確保が困難となる中、林業への新規就業者の着実な確保が重要です。
- ・ さらに、技術者や経営者の能力向上を図るためにビジネス林業促進事業の拡充が必要です。以上のことから下記事項を要望します。

④ 専門職大学の創設

⑤ 新規就業促進事業の拡充

⑥ ビジネス林業促進事業の拡充

農林業法人ヒヤリング調査報告

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 ハラダ製茶農園

2. 出席者

株式会社 ハラダ製茶農園 工場長 北川清様
静岡県経済産業部農業ビジネス課 課長 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成 30 年 8 月 9 日（木） 午後 0 時 50 分～1 時 50 分
場所：株式会社 ハラダ製茶農園

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

4 年制大学が出来るのは大歓迎。4 年間で専門的なマネジメントをしっかりと覚えてくる教育を行う大学はありがたい。経営者となるような人材は必要である。当社の経営者（社長）は、当社の親会社の経営者（社長）であるが、親会社の方が中心となっている。社員が使用人という意識でいると、この会社は潰れてしまうので社員が経営感覚を持っていないといけない。

弊社には栽培の指導部門があるが、指導部門の社員には、担当する作物の栽培だけでなく、農業全般を浅く広く、全体が分かっている人材が必要。農業は品目が違ってもつながっているので、農業に関する幅広い勉強をして知識を蓄えてくる、農業全般を勉強してくる人材は必要。

(2) 卒業生の採用について

全国で農業参入の企業は約 3,300 企業であり、専門職大学の人材を狙ってくるだろう。弊社としては、大学と短期大学の両方の人材を採用したい。何を聞いても答えられる、やることも基本どおりの確にやっているとプロ集団に見えるので、そのような人材が欲しい。

(3) 進学について

お茶はティーバックやドリンク原料などの下級茶の需要が高まっており、高級茶の需要は減少している。お茶だけでは経営が成り立たなくなっているため、複合経営が必要である。秋冬野菜や水稲など色々な組み合わせを考えなければならない。複合経営を実践するためには、何種類かの露地野菜や施設園芸などいくつかのパターンを基本どおり覚える学校形式のゼロからの学びが良いと思うので、これらを学ばせるための社員の派遣はあり得る。給料を払いつつ、費用を会社が負担することもあり得る。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

静岡県農業共同組合中央会

2. 出席者

静岡県農業共同組合中央会 部長 杉山和陽 様、嘉茂佑亮 様
静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課 課長 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月15日（水） 午前9時55分～11時
場所：静岡県農業共同組合中央会担い手支援部

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

大学及び短期大学ともに農業後継者、農業法人就職、JA職員の人材育成機関として期待している。

最近、農業への新規参入者の支援は手厚いが、後継者の支援は薄いという意見もある。後継者育成に力を入れて欲しい。農家の子弟が農業後継者として農業経営を継承して一本立ちしていくことが大事だと思っているので、大学の方では、そのための教育を親からどのように経営継承していくのか学べると良い。

(2) 卒業生の採用について

大学及び短期大学の卒業生は、農業後継者になるだけでなく、農業法人やJAグループに就職していただけるとありがたい。

農業法人は短大の方がターゲットになると思う。

JAは4大卒の採用も行っているが、営農指導員としてなど目的別採用を行っているところはない。

(3) 進学について

見込みがある人材にはもう一度学びの場を与えたいという法人もあると思う。専門職大学へ入学するのは難しいと思うが、学び直しのための社会人向けの講座があると良いのでは。技術の部分は日々触れていると思うので、特に経営の部分だと思う。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

朝霧メイプルファーム有限会社

2. 出席者

朝霧メイプルファーム有限会社 取締役 丸山純 様

静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月15日（水）午後1時20分～2時

場所：朝霧メイプルファーム有限会社事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

農業に必要なことが4大の設置趣旨に書いてあるが、あとは実現できるかである。

大学と現場・農家のつながりが希薄だと思っているので、有機的につながると良い。強い酪農家を作ることで、相互の影響が及ぶような大学になって欲しい。

(2) 卒業生の採用について

規模拡大を考えているので、大学、短期大学を問わず、いい人材がいれば採用したい。

(3) 進学について

社員の派遣は分からない。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

静岡県森林組合連合会

2. 出席者

静岡県森林組合連合会 代表理事常務 望月鉄彦 様、部長兼総務課長 渡辺英彰 様
静岡県経済産業部農業局 農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子
同 森林林業局 森林計画課 技監 大石 剛

3. 実施内容

平成30年8月17日（金） 午前10時～10時30分

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

林業の専門知識に特化した人材が育成できるとよい。経営の知識があると更に良いかと思う。
林業分野では現場も出来て、経営も出来る人材が欲しい。木が切れて、パソコン（経営の数字がわかる）が出来て、林学がわかる三能職員が必要。

(2) 卒業生の採用について

林業業界はマイナーなので、林業に就業したいと考える方は山に対する思い入れがある人なので、採用する場合は、そういった人を選択すると思う。

地元の人間で、山のことを勉強して、地元就職したいという人が、連合会としても森林組合としても採用したい人材なので、そのような人材なら短大・4大を問わず採用したい。

(3) 進学について

森林組合などを退職後に、地域で農業を始める人もいるので、林業ではなく、短大の方で農業について学びなおすニーズはあるかもしれない。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 カクト・ロコ

2. 出席者

株式会社 カクト・ロコ 代表取締役 野末信子 様
静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月17日（金） 午後2時～5時10分
場所：株式会社 カクト・ロコ店舗

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

専門職大学が実現できるならば、素晴らしいことだと思った。原点に戻って人間が生きていくためには何が必要か、子供たち教育する必要がある。大学が設置されることで、大学が核となり大地を耕して守っていくということが出来ればそれが基本になる。また、情報を発信することで地域が落ち着いたものになっていくのでは。

大学が環境を守っていくことには意義があると思う。今までは農林大学校がそのような役割を果たしてきたと思うが、世界に触手を伸ばしていく考え方も必要だと思うし、農業の最先端の技術や情報を伝えていける場があるとよい。

経営陣を育てるなら、最後の1年間くらい、どこかの法人の現場でみっちり経営の仕方を学ぶくらいしてもよいのでは。

農業は生産現場があるので、みんなが経営陣になると困る。現場に入るならば、短大で2年間学んで来てくれれば良い。

(2) 卒業生の採用について

経営状況によって、採用したい人材は異なる。現場を担う人材、経営を担う人材も両方欲しいが、経営の方は沢山はいらない。当社には番頭がないので、社長がいなくても采配を振るってくれる人材が2人は欲しい。

(3) 進学について

人手不足や人件費が高騰するなかで、短大で2年間、もしくは大学で4年勉強させる余力が会社にはないので、現状では社員を派遣することは難しい。社員は日々の作業に追われており、頭を柔らかくさせるために本当は良いとは思っているので、費用的な支援があれば考えてみたい。将来的にはあり得るかもしれない。

5. その他

農林大学校から今年は2名採用した。大変期待している。2年間だけだが、植物とともに生活してきた学生は、お勉強ばかりの子とは違う。以前採用した農大の卒業生は、生産の責任者で課長になっているが、来年は外部取締役になる。生産の主になってくれる子がいなくなるので、今年入社した卒業生にお願いすることになる。また、もう一人は営業を任せる予定。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

有限会社 高橋水耕

2. 出席者

有限会社 高橋水耕 代表取締役 高橋和晃 氏
静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月20日 午後1時15分～2時30分
場所：有限会社 高橋水耕 事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

大学に対する期待はある。しかし、大学を卒業した24人がどのようになっていくのか、不明。農協のTAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）なのか。県内農業法人の社員候補として人気は出ると思うが、経営幹部を求めている法人は、まだ少数である。独立就農を目指す学生が大学の方に来るかもしれない。

一方、短期大学は、卒業後にどのようになっていくのか、想像がつく。生産規模の拡大をしているので、現場を支える人材を育成する短期大学の方を期待している。

(2) 卒業生の採用について

当社では、短大生の方を採用したい。

幹部候補は求めているが、トマト販売を行っているグループ会社の方で、これから大卒のニーズが出てくる可能性はある。

(3) 進学について

社員に派遣はありうる。大学の方の3年次編入ならばあり得る。

5. その他

最近、高卒の採用を行っているが、農林大学校の卒業生と比較すると違いがある。2年間の学びは意味がある。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 春野コーポレーション

2. 出席者

株式会社 春野コーポレーション 代表取締役 鳥居 英剛 様
静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月21日 午後0時55分～1時40分

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

大学の設置の趣旨は賛成である。人やカネ、生産などのマネジメントを行う人材の育成を行うことを目的としていると思うが、あとは、本当にそれが実践できるのかではないか。ヒトや金、生産マネジメントを行う人材ならば、結果が出せるのかが評価のポイントとなる。

正社員は、作業者ではなく責任者や管理者になってもらいたいので、ある程度の教育をされた人材はありがたい。当社には現場の技術力が十分にあるので、生産技術の教育は特に求めている。

(2) 卒業生の採用について

ヒトやカネ、生産技術をマネジメントについて学んだ人材ならばぜひ欲しい。上昇志向のある、幹部を志すような学生を採用したい。

(3) 進学について

戦略、マーケティング、経営課題などについて学ばせるために、社員の派遣はぜひしたい。

5. その他

大学の学生の学び、学生との交流につながるような協力は、ぜひ行いたい。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 とやま農園

2. 出席者

株式会社 とやま農園 代表 外山徳彦

静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月27日 午後0時50分～1時30分

場所：株式会社 とやま農園事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

経営の知識を最初から身につけ、幹部として最初から経営に関わってくれる人がいると良い。最近、経営が分かる人材を求める経営体は増え始めていると感じる。

法人になる農家が増えている。目的を持って法人にしていると思うが、経営規模の拡大を目指している農家は必ず従業員と従業員を管理する人が必要となってくる。そういう人が増えてくる中で、短期大学を出て、現場ですぐに仕事ができる人と、経営者として現場に出ながら従業員を管理していく人たちが必要となってくる。経営者を育てる専門職大学は必要だと思う。

現場の人材を育てる短期大学と、経営者を育てる大学の両方があることは意味がある。

(2) 卒業生の採用について

生産現場ではチームに分かれて仕事をするが、チームをまとめる人が欲しい。また、自分の後継者になるような人材に加え、もう一人右腕になるような人を採用したい。

(3) 進学について

社員が学び直しのために大学へ行くことはあり得る。本人のやる気次第。以前、農大の講座に行かせたことはある。

5. その他

農林大学校の卒業生を去年採用した。現場に出ているので仕事には慣れていていると思うが、即戦力までではない。専門的な部分は、もう少し突っ込んで勉強をすると良いかと思う。そうすれば、1年目から即戦力になる。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

富士森林組合

2. 出席者

富士森林組合 代表理事専務 古川日出男、参与 遠藤康由
静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月30日 午前10時～11時10分
場所：富士森林組合事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

コンセプトに沿った、地域に沿った人材育成を行ってほしい。林業の施業が大きく変わっていると感じられる人でないといけない。新しい人材をいれていかないと、林業は持続的に発展しない。これから林業分野では、経営を行う人材を求められるようになる。林業の将来を見通せるリーダーが必要である。受入側と育成側がどのように連携して人材育成をおこなっていくのか、考えてほしい。

(2) 卒業生の採用について

林業現場を担う人材と森林施業プランナーと両方が必要である。現場を担うのか、プランナーになるかは、本人次第だが、現場だけでいい人は短期大学でよい。大学ならば、林業の実務を学ぶだけでなく、森林施業プランナーを育成することが必要である。プランナーは、現場がわかっていて、プランを作成するものなので、短期大学の+2年の教育が必要である。

(3) 進学について

大学への職員の派遣はあり得る。負担をどのようにするかが課題ではある。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

農事組合法人 ジャパン・ベリー

2. 出席者

農事組合法人 ジャパン・ベリー 代表理事組合長 上山優
静岡県経済産業部農業ビジネス課 班長 田林大介、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年9月13日 午前11時40分～午後0時20分
場所：農事組合法人 ジャパン・ベリー事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

専門職大学、専門職短期大学は期待している。ぜひ、コンセプトにある人材を育成してほしい。

(2) 卒業生の採用について

専門職大学の卒業生を採用したい。右腕となるような、経営を考えられる人を入れていきたい。
専門職短期大学の卒業生は、継続して採用したい。施設園芸や野菜の知識、幅広い知識、バイ
タリティーを備えた人材が欲しい。

(3) 進学について

職員の派遣は将来的にはあり得る。どちらかという短期講座をやってもらった方が職員を参加
させやすい。

5. その他

現在の農林大学校卒業生は良く働いてくれる。イチゴの知識があるので助かる。今後は、現場をま
かせるようにしていきたい。